〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	生物	学科名	柔道整復	履修年次	1年次
		教授法	講義	単位数コマ	5単位（38コマ）
教 員	小川貴志子	領域	基礎	実務経験	無

教科書	とってもやさしい生物基礎
参考書	
成績評価	年間出席数と定期試験、小テストを含めた総合評価
評価基準	年間出席の2/3以上の出席と定期試験60点以上を成績の下限として、小テストを含めた総合評価を行う。
到達目標	生物が示す生命現象の機序を理解するために生理学用語を学び、基礎知識を身につける。
留意点	
授業外に必要な学習内容	授業の復習は必ず行う。復習する時に生理学や解剖学の教科書をよく読んで授業ノートと合わせて整理しておく。休みの日など時間のある時に国家試験の過去問題集などを解いてみる。
授業内容	解剖学や生理学を学んでいくうえで必要な基礎知識を身につけることを一次目標に、生物の特徴、遺伝子とその働き、生物の体内環境の維持、生物の多様性など生物学や分子生物学の基礎を学習する。さらに、柔道整復師として現場で働く時に必要な身体や健康についての考え方を学ぶ。

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	生物学の基礎ガイダンス	
2	細胞の小器官種類と役割	
3	タンパク質の合成	
4	エネルギーと代謝	
5	呼吸と代謝	
6	ミトコンドリアと代謝	
7	遺伝情報とDNA	
8	DNAの構造	
9	ゲノムと遺伝情報	
10	細胞分裂と遺伝情報の分配	

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
11	細胞周期とDNA	
12	遺伝子情報とタンパク質の合成	
13	体内環境と恒常性	
14	ヒトの体液の種類と働き	
15	定期試験	
16	血液と血液凝固	
17	ヒトの循環系	
18	心臓と血管の構造	
19	血液循環と血管の構造	
20	肝臓の構造	
21	肝臓の働き	
22	腎臓の構造	
23	腎臓の働き	
24	ヒトの神経系	
25	神経の構造と神経伝達	
26	中枢神経系	
27	脳の構造と大脳皮質の機能局在	
28	自律神経系	
29	自律神経による調節	
30	内分泌の特徴	

授業内容

31	ヒトの主なホルモンの種類と作用	
32	自律神経とホルモンの強調	
33	体温の調節	
34	免疫のしくみ	
35	免疫で働く細胞（種類と働き）	
36	自然免疫系・獲得免疫系	
37	定期試験	
38	まとめと解説	

<2021年度>

授 業 要 項

科 目	国語	学科名	柔道整復	履修年次	1年次
		教授法	講義	単位数コマ	4 単位(30ｺﾏ)
教 員	本藤毅昭	領域	基礎	実務経験	無
教科書	日本語検定公式テキスト・例題集「日本語」中級 増補改訂版				
参考書					
成績評価	試験（2回/年）・毎回の演習テスト・提出物・授業態度などを総合的に評価する。				
評価基準	年間出席の2/3以上の出席と定期試験60点以上を成績の下限とする。				
到達目標	医療現場で必要となるコミュケーション能力と論理的思考に基づく表現力を身に付ける				
留意点					
授業外に必要な学習内容	教科書に示されている日本語表現の基礎内容を繰り返し確認しておくこと。				
授業内容	講義と実践（演習、ロールプレイ）により、理解と確認を繰り返し行う。ソーシャルスキルを学ぶことで、良好な人間関係を築くためのコミュニケーション力を育て、日本語表現の基礎を学ぶことで論理的思考（ロジカルシンキング）に基づく表現する力を育成する。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	ガイダンス、コミュニケーションとは、言葉の成り立ち	
2	ソーシャルスキル「挨拶をする」、スタディスキル「メモ」	
3	ソーシャルスキル「自己紹介をする」	
4	ソーシャルスキル「聴くスキル」 傾聴とは	
5	ソーシャルスキル「話すスキル」	
6	ソーシャルスキル 「話し合いのスキル」1	
7	ソーシャルスキル 「話し合いのスキル」2	
8	ソーシャルスキル「上手に断る」アサーション	
9	ソーシャルスキル「感情をコントロールするスキル」アンガーマネジメント	
10	ソーシャルスキル「うまく問題を解決するスキル」	

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
11	スタディスキル 「正しい日本語を使う1」敬語、文法	
12	スタディスキル 「正しい日本語を使う2」接続詞	
13	スタディスキル 「正しい日本語を使う3」辞書を読む、言葉を考える	
14	前期試験	
15	フィードバック・まとめ	
16	スタディスキル「正しい日本語を使う4」	
17	スタディスキル「正しい日本語を使う5」辞書を作る	
18	スタディスキル 「説明する、発表する」	
19	スタディスキル 「電話をする」	
20	スタディスキル 「メールをする」	
21	スタディスキル 「手紙を書く」	
22	スタディスキル 「調べ方」「レポートを書く」	
23	コミュニケーションゲーム1	
24	文学に見る医療1	
25	文学に見る医療2	
26	文学に見る医療3	
27	コミュニケーションゲーム2	
28	後期のまとめ	
29	後期試験	
30	フィードバック・その他	

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	解剖学1	学科名	柔道整復	履修年次	1年次
		教授法	講義	単位数コマ	3単位 (38コマ)
教 員	佐藤史人	領域	専門基礎	実務経験	接骨院

教科書	全国柔道整復学校協会監修　解剖学改訂第2版
参考書	
成績評価	小テスト、出席、定期試験を総合的に評価する。
評価基準	定期試験60点以上で合格、欠席日数が出席日数の1/3を超えた場合は単位不認定とする。
到達目標	正常な運動器の形態を身につける。
留意点	
授業外に必要な学習内容	授業においてその都度説明する。
授業内容	柔道整復師として接骨院での勤務経験を踏まえ、本科目では教科書・配布資料を基に授業を進める。 毎回宿題を課し、予習、復習をしてくること。 身体における正常な構造を知ることは、骨折、脱臼を評価していく柔道整復師にとって非常に重要となる。 正しい身体の構造を教科書、映像資料を用い、授業を進めていく。

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
1	ガイダンス	プロジェクター
2	骨格系総論①	プロジェクター
3	骨格系総論②	プロジェクター
4	筋系総論	プロジェクター
5	上肢の骨格①（肩甲骨、鎖骨、上腕骨）	プロジェクター
6	上肢の骨格②（橈骨、尺骨、手根骨、指骨）	プロジェクター
7	上肢の筋①（三角筋、棘上筋、棘下筋、小円筋、大円筋、肩甲下筋）	プロジェクター
8	上肢の筋②（上腕二頭筋、上腕筋、上腕三頭筋、肘筋）	プロジェクター
9	上肢の筋③（円回内筋、橈側手根屈筋、長掌筋、尺側手根屈筋）	プロジェクター
10	上肢の筋④（浅指屈筋、深指屈筋、長母指屈筋、方形回内筋）	プロジェクター

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
11	上肢の筋⑤（腕橈骨筋、長、短橈側手根伸筋、指伸筋、尺側手根伸筋）	プロジェクター
12	上肢の筋⑥（回外筋、長母指外転筋、短母指伸筋、長母指伸筋、 示指伸筋、小指伸筋）	プロジェクター
13	上肢の筋⑦（母指球筋、小指伸筋、手掌の筋）	プロジェクター
14	上肢の関節①（胸鎖関節、肩鎖関節、肩甲上腕関節）	プロジェクター
15	上肢の関節②（肘関節、橈尺関節、手関節）	プロジェクター
16	上肢の骨、筋、関節の総復習	プロジェクター
17	下肢の骨①（寛骨、仙骨、尾骨、大腿骨、膝蓋骨）	プロジェクター
18	まとめ・演習	プロジェクター
19	下肢の骨②（脛骨、腓骨,足根骨、足趾の骨）	プロジェクター
20	下肢の筋①（腸腰筋、大・中・小殿筋、大腿筋膜張筋、深層外旋6筋）	プロジェクター
21	下肢の筋②（大腿四頭筋、ハムストリングス）	プロジェクター
22	下肢の筋③（恥骨筋、短内転筋、長内転筋、大内転筋、薄筋）	プロジェクター
23	下肢の筋④（前脛骨筋、長趾伸筋、長母指伸筋、第3腓骨筋）	プロジェクター
24	下肢の筋⑤（長腓骨筋、短腓骨筋、長趾屈筋、長母指屈筋、後脛骨筋）	プロジェクター
25	下肢の筋⑥（下腿三頭筋、足底、足背筋）	プロジェクター
26	下肢の関節①（股関節、膝関節）	プロジェクター
27	下肢の関節①（距腿関節、距骨下関節、ショパール、リスフラン関節）	プロジェクター
28	下肢の骨、筋、関節の総復習	プロジェクター
29	脊椎の骨（頸椎、胸椎、腰椎、仙椎、尾椎）	プロジェクター
30	胸郭の骨（胸骨、肋骨） 胸部の筋（大胸筋、小胸筋、前鋸筋、鎖骨下筋、肋間筋）	プロジェクター

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
31	腹部の筋（腹直筋、錐体筋、内・外腹斜筋、腹横筋、腰方形筋）	プロジェクター
32	背部の筋（僧帽筋、肩甲挙筋、菱形筋、広背筋）	プロジェクター
33	固有背筋、胸鎖乳突筋、広頚筋、頚部の筋	プロジェクター
34	頭蓋骨（脳頭蓋骨）	プロジェクター
35	頭蓋骨（顔面頭蓋）	プロジェクター
36	表情筋	プロジェクター
37	まとめ・演習	プロジェクター
38	総まとめ	プロジェクター

<2021年度>

授 業 要 項

科 目	解剖学2	学科名	柔道整復	履修年次	1年次
		教授法	講義	単位数コマ	3単位(38コマ)
教 員	竹前紀樹	領域	専門基礎	実務経験	病院
教科書	1) 解剖学 公益社団法人全国柔道整復学校協会 監修 医歯薬出版 2) 新解剖学、日本医事新報社、				
参考書	日本人体解剖学 南山堂(本学図書所蔵)				
成績評価	定期試験、出席状況などを総合的に評価する。				
評価基準	定期試験60点以上で合格、欠席日数が出席日数の1/3を超えた場合は単位不認定とする。				
到達目標	各器官の位置関係、形状、内部構造、役割について学び、専門分野の正確な理解に役立て、確かな施術を行う。				
留意点	1) 日々の復習を習慣化する。2) マイノートを作成する。				
授業外に必要な学習内容					
授業内容	病院での勤務経験を踏まえ、解剖学では人体の形態と構造を教授し、器官系という機能システムに分けて学習を進める(系統解剖学)。解剖学2では、脈管系、内臓系、内分泌系、神経系、感覚器系について教科書を用いて授業を行う。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	脈管系(オリエンテーション、総論)	
2	脈管系(総論)	
3	脈管系(心臓)	
4	脈管系(心臓)	
5	脈管系(動脈)	
6	脈管系(動脈)	
7	脈管系(静脈)	
8	脈管系(リンパ管)	
9	脈管系(リンパ性器官、胎生期の血液循環)	
10	内臓系(総論、消化器)	

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
11	内臓系（消化器）	
12	内臓系（消化器）	
13	内臓系（消化器）	
14	まとめ①	
15	前期末本試験解説	
16	内臓系（呼吸器）	
17	内臓系（呼吸器）	
18	内臓系（泌尿器）	
19	内臓系（泌尿器）	
20	内臓系 （生殖器）	
21	内臓系（生殖器）	
22	内臓系 （生殖器）	
23	内分泌系（視床下部－下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体）	
24	内分泌系（副腎、膵臓、精巣、卵巣）	
25	神経系（総論、神経組織）	
26	神経系（中枢神経）	
27	神経系（中枢神経）	
28	神経系（中枢神経）	
29	神経系（伝導路）	
30	神経系（伝導路）	

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
31	神経系（末梢神経）	
32	神経系（末梢神経）	
33	神経系（末梢神経）	
34	感覚器系〈皮膚、深部感覚）	
35	感覚器系（視覚器）	
36	感覚器系（聴覚平衡器）	
37	まとめ②	
38	後期本試験解説	

<2021年度>

授 業 要 項

科 目	生理学1	学科名	柔道整復	履修年次	1年次
		教授法	講義	単位数コマ	3単位 (38コマ)
教 員	竹岡みち子	領域	専門基礎	実務経験	無

教科書	「生理学改定第3版」南江堂
参考書	必要に応じ適宜示唆解説する
成績評価	定期試験、小テスト（講義中実施）、及び出席状況に基づく総合判定
評価基準	定期試験で6割以上 （小テストを加味する）
到達目標	人体を構成する細胞、組織、器官の機能につき、個別の知識だけでなく、身体を統合した上での理解を深める
留意点	その日のうちに必ず教科書を読み返し復習すること
授業外に必要な学習内容	その日のうちに必ず毎回配布するプリントを復習し、教科書の該当部分を読み返す. また、小テストの準備をする. .
授業内容	教科書の内容を中心に、スライドを使用してわかりやすく解説して行く。前回の授業内容の理解度を把握するため、毎回授業前に小テストを行う。直後に解答を配布するが, これが授業一回ごとのまとめとなる

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	1.生理学とは	通年−教科書･スライド
2	1.生理学とは	
3	2.筋の生理	
4	2.筋の生理	
5	まとめプリントの使い方	
6	2.筋の生理	
7	3.神経の生理	
8	3.神経の生理	
9	3.神経の生理	
10	3.神経の生理	

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
11	3.神経の生理	
12	3.神経の生理	
13	4.運動の生理	
14	4.運動の生理	
15	4.運動の生理	
16	4.運動の生理	
17	総括・復習	
18	前期試験	
19	前期試験解説	
20	5. 感覚の生理	
21	5. 感覚の生理	
22	5. 感覚の生理	
23	5. 感覚の生理	
24	5. 感覚の生理	
25	6.内分泌	
26	6.内分泌	
27	6.内分泌	
28	6.内分泌	
29	6.内分泌	
30	7.生殖	

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
31	7.生殖	
32	7.生殖	
33	8.骨	
34	8.骨	
35	総括・復習1	
36	総括・復習2	
37	後期試験	
38	後期試験解説	

〈2021 年度〉

授 業 要 項

科 目	関係法規	学科名	柔道整復	履修年次	1年次
		教授法	講 義	単位数コマ	1単位(13ｺﾏ)
教 員	関屋浩介	領域	専門基礎	実務経験	接骨院

教科書	「関係法規2020年度版」（公財）全国柔道整復学校協会　医歯薬出版株式会社
参考書	なし。教科書にない内容は、プリントや板書を用いて実習をすすめる。
成績評価	試験（70%） 実習への取り組み（30%）
評価基準	S評価（90点以上） A評価（80点以上） B評価（70点以上） C評価（60点以上） D評価（60点未満）
到達目標	柔道整復師が業務に携わる上で必要となる「柔道整復師法」を理解し、業務を知る。医療従事者として必要となる医療福祉法規や、多数の規律事項を理解する。規則・罰則としてのみではなく「良質な医療の提供」するための体制として関係法規に関する知識を習得する。
留意点	欠席はたとえ一回であっても貴重な学習機会を失うことになる。安易に休まない。
授業外に必要な学習内容	復習が重要。 授業を受けたその日のうちに①教科書を読み返す②ノートをまとめる③練習問題をなどをして欲しい。
授業内容	柔道整復師として接骨院での勤務経験を踏まえ、本科目では基礎法学の学習、柔道整復師法の理解、さらにその他医療関係法規や社会福祉関係法規の理解に至るまで、多種多様な法規に関する応用能力の向上を図るため、質疑応答を繰り返す対話型授業を目指す。

授業内容

日 程	内 容		使用機材等
1	1.法の意義と体系 p1 2.関係法規 p3 3.柔道整復師と患者の権利 p4	1.柔整業務に必要な法の基礎 2.成文法の種類と優劣 3.インフォームド・コンセントの概要と必要性	「関係法規」、筆記具、ノート
2	1.リスクマネジメントと医療事故調査制度 p5 2.柔道整復師法の目的と定義 p9 3.柔道整復師免許 p11	2.柔道整復師の業と業務 3.免許の効力と資格要件 3.登録と交付	「関係法規」、筆記具、ノート
3	1.柔道整復師名簿 p14	1.名簿の登録事項、訂正、削除など 1..免許の取り消し、返納	「関係法規」、筆記具、ノート
4	1.柔道整復師の国家試験 p20 2.柔道整復師の業務と業務範囲 p24	1.受験資格と試験科目 2.業務独占と名称独占 2.柔道整復師の業務範囲	「関係法規」、筆記具、ノート
5	1.柔道整復師の守秘義務 p27 2.施術所の開設と休止 p29	1..秘守義務の理解 2.施術所の開設、休止の要件、届出	「関係法規」、筆記具、ノート
6	1.施術所の構造設備と監督 p30 2.柔道整復の業務と施術所の広告制限 p32	1..施術所の構造設備 2.広告の制約を理解	「関係法規」、筆記具、ノート
7	1.罰 則 p37 2.指定登録機関と指定試験機関 p42 3.免許と受験資格の特例 p45	1.各罰則について 2.行政事務の委託と研修試験財団	「関係法規」、筆記具、ノート
8	1.医療従事者の資格法 p47	1.医師の免許と業務 1.保健師、助産師、看護師の業務と違い 1.放射線技師、薬剤師の業務 1.理学、作業療法士の業務と違い	「関係法規」、筆記具、ノート
9	1.医療法 p66	1.各種医療機関の定義と医療提供体制	「関係法規」、筆記具、ノート
10	1.社会福祉関係法規 p87 2.社会保険関係法規 p93	1.社会福祉法の目的と各法の概要 2.各種の社会保険法の概要	「関係法規」、筆記具、ノート

授業内容

日　程	内　　容		使用機材等
11	1.個人情報保護関係　p101 2.振り返り①	1.個人情報保護法の概要 1.個人情報の定義と取り扱い	「関係法規」、筆記具、ノート
12	1.まとめ	！試験の手順に従ってください！	筆記具
13	1.振り返り② 2.総　評	1.試験の内容を振り返る 2.実習全体を振り返り、まとめる	「関係法規」、筆記具、ノート

p.nn＝教科書「関係法規2019」の参照ページ　　prn.＝プリント

<2021年度>

授 業 要 項

科 目	柔道整復の歴史	学科名	柔道整復	履修年次	1年次
		教授法	講義	単位数コマ	1単位(13ｺﾏ)
教 員	関屋浩介	領域	専門基礎	実務経験	接骨院

教科書	「柔道整復学・理論編　改訂第6版」　(公財)全国柔道整復学校協会　南江堂社
参考書	なし。教科書にない内容は、プリントや板書を用いて実習をすすめる。
成績評価	試験(70%)　実習への取り組み(30%)
評価基準	S評価(90点以上)　A評価(80点以上)　B評価(70点以上)　C評価(60点以上)　D評価(60点未満)
到達目標	柔道整復術の歴史を学び、卒業の前に学生各人が「柔道整復師」について明確なイメージを持てるようになることを目指す。柔道整復師生涯学び続け、向上する柔道整復師としての資質を身につける。
留意点	欠席はたとえ一回であっても貴重な学習機会を失うことになる。安易に休まない。
授業外に必要な学習内容	復習が重要。 授業を受けたその日のうちに①教科書を読み返す②ノートをまとめる③練習問題を見直すなどをして欲しい。
授業内容	柔道整復師として接骨院での勤務経験を踏まえ、本科目では最初に医学史として、医療発達の歴史、 続いて柔道整復術の中世から現代に至る歴史を学ぶ。さらに現在の業務範囲について学習を進める。 柔道整復師を取り巻く法規制をからみた現況を確認する。 「人体に加わる力」「損傷時に加わる力」ついても改めて整理し、学習する。

授業内容

日　程	内　　容		使用機材等
1	1.医学の発達 2.柔道整復術と柔道整復師の歴史 ①	1.起源、古代、中世、近代、現代 1.治療と予防 2.起源　、基本概念の成立 2.中世、近世、戦後、単独法の成立	教科書、筆記具、ノート
2	1.柔道整復術と柔道整復師の歴史 ② p2	1.国家試験への移行と指導要領の制定 1.柔道整復師と柔道　p5 1.柔道整復術の現代的意義　p6	教科書、筆記具、ノート
3	1.柔道整復の業務範囲 2.心得と倫理綱領　p10	1.業務範囲と条文、術　p7 1.業務禁止と施術制限、権能、限界　p7 1.X線と附帯決議 1.医接連携　p9 1.受領委任制度　　p10	教科書、筆記具、ノート
4	1.人体に加わる力 2.損傷時に加わる力	2.損傷時の力　p14 2.損傷時の力の種類　p15 2.損傷時の力に影響を与える要素　p15	教科書、筆記具、ノート
5	1.法にみる柔道整復①	1.総　則 1.免　許	教科書、筆記具、ノート
6	1.法にみる柔道整復②	1.柔道整復師名簿 1.試　験	教科書、筆記具、ノート
7	1.法にみる柔道整復③	1.医療法 1.医師法	教科書、筆記具、ノート
8	1.法にみる柔道整復④	1.その他の資格法	教科書、筆記具、ノート
9	1.法にみる柔道整復⑤	1.国民医療費	教科書、筆記具、ノート
10	1.法にみる柔道整復⑥	1.第6講から9講をまとめる	教科書、筆記具、ノート

授業内容

日　程	内　　容		使用機材等
11	1.振り返り①	1.試験範囲を振り返り、まとめる	教科書、筆記具、ノート
12	1.まとめ		筆記具
13	1.振り返り② 2.総　評	1.試験の内容を振り返る 2.授業全体を振り返り、まとめる	教科書、筆記具、ノート

p.nn＝教科書「柔道整復学理論編改定第5版」の参照ページ　　prn.＝プリント

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	職業倫理	学科名	柔道整復	履修年次	1年次
		教授法	講 義	単位数コマ	1単位(13コマ)
教 員	関屋浩介	領域	専門基礎	実務経験	接骨院
教科書	「社会保障制度と柔道整復師の職業倫理」 （公財）全国柔道整復学校協会 医歯薬出版株式会社				
参考書	なし。教科書にない内容は、プリントや板書を用いて実習をすすめる。				
成績評価	試験（70%） 実習への取り組み（30%）				
評価基準	S評価（90点以上） A評価（80点以上） B評価（70点以上） C評価（60点以上） D評価（60点未満）				
到達目標	「インフォームド・コンセント」や「患者中心の医療」ついて、柔道整復医療の現場を踏まえつつ柔道整復師の立場、患者の立場の双方の視点からリスクマネジメントができる職業人としての基礎を備える。				
留意点	欠席はたとえ一回であっても貴重な学習機会を失うことになる。安易に休まない。				
授業外に必要な学習内容	復習が重要。 授業を受けたその日のうちに①教科書を読み返す②ノートをまとめる③練習問題を見直す などをして欲しい。				
授業内容	柔道整復師として接骨院での勤務経験を踏まえ、本科目では「医療従事者の職業倫理」「柔道整復師に必要な基本的倫理観と患者対応」「柔道整復師の社会的責任と対応」などについてテキストにある事例を適宜グループワークしながら教授する。				

授業内容

日 程	内 容		使用機材等
1	1.医療従事者の職業倫理 p49 2.柔道整復師に必要な基本的倫理感と患者への対応 p52	1.職業倫理とは 1.医療における現代的倫理感への経緯 2.インフォームドコンセントと インフォームドアセント 2.医療従事者の秘守義務	教科書、筆記具、ノート
2	1.柔道整復師の社会的責任と対応 ① p56	1.医療契約の範囲 1.医療事故と対応	教科書、筆記具、ノート
3	1.柔道整復師の社会的責任と対応 ② p59	1.患者から暴言暴行を受けた時の対応 1.施術料未払いの患者が再来院した時の対応	教科書、筆記具、ノート
4	1.ケーススタディ p62	1.事例1	教科書、筆記具、ノート
5	1.ケーススタディ p62	1.事例2	教科書、筆記具、ノート
6	1.ケーススタディ p62	1.事例3	教科書、筆記具、ノート
7	1.NIE	1.報道にみる不正請求	教科書、筆記具、ノート
8	1.NIE	1.報道にみる柔道整復師の業務	教科書、筆記具、ノート
9	1.法にみる柔道整復①	1.患者の権利 1.医療過誤とリスクマネジメント	教科書、筆記具、ノート

授業内容

日　程	内　　容		使用機材等
10	1.法にみる柔道整復②	1.業 1.施術所 1.雑　則 1.罰　則	教科書、筆記具、ノート
11	1.振り返り①	第1～10講を振り返る	教科書、筆記具、ノート
12	1.まとめ	！試験の手順に従ってください！	筆記具
13	1.振り返り② 2.柔道整復師会　倫理綱領　p66 3.総　評	1.試験の内容を振り返る 2.柔道整復師の倫理と プロフェッショナリズム 3.授業全体を振り返り、まとめる	教科書、筆記具、ノート

p.nn＝教科書「社会保障制度と柔道整復師の職業倫理」の参照ページ　　prn.＝プリント

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	柔道1	学科名	柔道整復	履修年次	1年次
		教授法	実技	単位数コマ	2単位(30コマ)
教 員	小林廣幸	領域	専門基礎	実務経験	接骨院

教科書	五月書房、『イラスト柔道の形』
参考書	柔道国際審判規定／DVD柔道の形
成績評価	①授業態度 ②出席日数 ③実技試験 を総合する。
評価基準	総合で60点以上を合格とする。
到達目標	受け身、礼法、投げの形をマスターする。
留意点	ピアス、ネックレスは外す。長髪は束ねる。傷病等により見学である場合も可能なかぎり柔道着を着用する。
授業外に必要な学習内容	適宜、柔道場での自主練習を求める。
授業内容	柔道整復師として接骨院での勤務経験を踏まえ授業を進める。 ・礼法や受け身の実技指導はもちろん、投の形や約束乱取りも学生同士でペアを組み修練を進める。 ・2年時の1級取得に備え、実技指導を行う。

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	柔道と柔道整復師の繋がり，柔道の歴史，柔道と柔道整復師	イラスト柔道の形
2	柔道のルール(国際試合審判規定)	柔道国際審判規定
3	柔道着のたたみ方,柔道の立礼と座礼,歩行(すり足,継ぎ足)	イラスト柔道の形
4	柔道の組み方，受身(坐位から)	イラスト柔道の形
5	受身(そんきょ姿勢から,立礼から)	イラスト柔道の形
6	受身(前方回転受身)	イラスト柔道の形
7	受身総合練習	イラスト柔道の形
8	柔道投の形(DVD鑑賞)	DVD柔道の形
9	投の形(手技:背負投)	イラスト柔道の形
10	投の形(手技:背負投)	イラスト柔道の形

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
11	投の形(手技:浮落)	イラスト柔道の形
12	投の形(手技:浮落)	イラスト柔道の形
13	投の形(腰技:浮腰)	イラスト柔道の形
14	投の形(腰技:浮腰)	イラスト柔道の形
15	投の形(腰技:払腰)	イラスト柔道の形
16	投の形(腰技:払腰)	イラスト柔道の形
17	総復習	イラスト柔道の形
18	前期試験	
19	投の形(腰技:釣込腰)	イラスト柔道の形
20	投の形(腰技:釣込腰)	イラスト柔道の形
21	投の形(足技:送足払)	イラスト柔道の形
22	投の形(足技:送足払)	イラスト柔道の形
23	投の形(足技:支釣込足)	イラスト柔道の形
24	投の形(足技:支釣込足)	イラスト柔道の形
25	投の形(足技:内股)	イラスト柔道の形
26	投の形(足技:内股)	イラスト柔道の形
27	総復習	イラスト柔道の形
28	後期試験	
29	約束乱取	デジタイマー
30	約束乱取	デジタイマー

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	基礎柔道整復学1	学科名	柔道整復	履修年次	1年次
		教授法	講 義	単位数コマ	2単位(30コマ)
教 員	山田浩正	領域	専門	実務経験	接骨院
教科書	柔道整復理論編 （P66～P85・P256～P287）、柔道整復実技編				
参考書	病気が見えるシリーズ				
成績評価	定期試験・出席日数・授業態度・小テスト				
評価基準	定期試験基準をクリアすること。出席日数基準をクリアすること。				
到達目標	柔道整復で行う各種治療法、指導管理の基礎を身につける。損傷の評価や外傷予防についても柔道整復師に必要な知識として習得する。				
留意点					
授業外に必要な学習内容	予習復習で教科書を読む。				
授業内容	柔道整復師として接骨院での勤務経験を踏まえ、本科目では教科書とプリントを用いて大切な部分を重点的に授業を行う。定期的に小テストを行い理解度の確認を行う。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション・授業について	シラバス
2	4-3筋の損傷 A筋の構造と機能	プリント プロジェクター PC
3	4-3筋の損傷 B筋損傷の概説	プリント プロジェクター PC
4	4-3筋の損傷 C筋損傷の分類	プリント プロジェクター PC
5	4-3筋の損傷 D筋損傷の症状 E筋損傷の治癒機序 F筋損傷の予後4	プリント プロジェクター PC
6	4-4腱の損傷 A腱の構造と機能 B腱損傷の概説	プリント プロジェクター PC
7	4-4腱の損傷 C腱損傷の分類 D腱損傷の症状 E腱損傷の治療機序	プリント プロジェクター PC
8	4-5末梢神経の損傷 A神経の構造と機能 B神経損傷の概説 C神経損傷の分類	プリント プロジェクター PC
9	4-5末梢神経の損傷 D末梢神経損傷の症状 E末梢神経損傷の治癒過程	プリント プロジェクター PC
10	2-3上腕部の損傷 A機能と解剖 B上腕部骨幹部骨折	プリント プロジェクター PC

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
11	2-3上腕部の損傷　B上腕部骨幹部骨折	プリント　プロジェクター　PC
12	2-3上腕部の損傷　C上腕部の軟部組織損傷	プリント　プロジェクター　PC
13	前期振り返り	プリント　プロジェクター　PC
14	まとめ①	
15	まとめ②・再試験	プリント　プロジェクター　PC
16	2-4肘関節部の損傷　A機能と解剖	プリント　プロジェクター　PC
17	B上腕遠位部の骨折　①上腕骨顆上骨折	プリント　プロジェクター　PC
18	B上腕遠位部の骨折　②上腕骨外顆骨折	プリント　プロジェクター　PC
19	B上腕遠位部の骨折　③上腕骨内側上顆骨折	プリント　プロジェクター　PC
20	C前腕近位部骨折　①橈骨近位端部骨折	プリント　プロジェクター　PC
21	C前腕近位部骨折　②肘頭骨折	プリント　プロジェクター　PC
22	D肘関節の脱臼　①前腕両骨脱臼　②橈骨頭端単独脱臼	プリント　プロジェクター　PC
23	D肘関節の脱臼　③肘内障	プリント　プロジェクター　PC
24	E肘関節部の軟部組織損傷　①靭帯の損傷	プリント　プロジェクター　PC
25	E肘関節部の軟部組織損傷　②野球肘	プリント　プロジェクター　PC
26	E肘関節部の軟部組織損傷　③テニス肘	プリント　プロジェクター　PC
27	E肘関節部の軟部組織損傷　④その他の疾患	プリント　プロジェクター　PC
28	全体復習	プリント　プロジェクター　PC
29	まとめ①	
30	まとめ②・再試験	プリント　プロジェクター　PC

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	基礎柔道整復学2	学科名	柔道整復	履修年次	1年次
		教授法	講義	単位数コマ	2単位(30コマ)
教 員	宮前 勤	領域	専門	実務経験	施設
教科書	柔道整復学・理論編改訂第6版P21～47　288～303・実技書　解剖学				
参考書	プリント				
成績評価	筆記試験 小テストの結果を加算する場合がある。				
評価基準	筆記試験・小テスト（講義中実施）・出席日数・学習態度				
到達目標	柔道整復師に必要となる骨折の定義、分類、症状や治癒経過などの骨損傷の基礎的な知識を習得する。 前腕部の骨損傷について学び、理解を深める。				
留意点	各試験60点以上で合格。欠席日数が出席日数の1/3を超えた場合は単位不認定とする。				
授業外に必要な学習内容	授業中に配布したプリントの復習。				
授業内容	柔道整復師として施設での勤務経験を踏まえ、機能解剖学を各章の前座として講義する。機能解剖学の知識を基盤として病態生理を理解する。 本科目では骨折総論、前腕部骨折、軟部組織損傷について授業を進める。プリントを用いて理解を深めていく。				

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
1	骨の形態と機能その1	プリント
2	骨の形態と機能その2	プリント
3	骨の形態と機能その3	プリント
4	骨折の分類	プリント
5	骨折の症状	プリント
6	骨折の合併症	プリント
7	小児骨折	プリント
8	高齢者骨折	プリント
9	骨折の癒合日数	プリント
10	骨折の治癒経過	プリント

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
11	骨折の予後	プリント
12	骨折の治癒に影響を与える因子	プリント
13	まとめ、定期試験ガイダンス	プリント
14	定期テスト解説	プリント
15	前腕部の解剖と機能その１	プリント
16	前腕部の解剖と機能その２	プリント
17	前腕部の解剖と機能その３	プリント
18	ガレアジ骨折	プリント
19	尺骨骨幹部骨折	プリント
20	モンテギア骨折	プリント
21	橈・尺骨両骨骨幹部骨折	プリント
22	前腕部骨折まとめ	プリント
23	前腕コンパートメント症候群	プリント
24	腱交叉症候群	プリント
25	上肢の末梢神経障害その１	プリント
26	上肢の末梢神経障害その２	プリント
27	上肢の末梢神経障害その３	プリント
28	上肢の末梢神経障害その４	プリント
29	総まとめ。定期テストガイダンス	プリント
30	定期テスト解説	プリント

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	臨床柔道整復学1	学科名	柔道整復	履修年次	1年次
		教授法	講 義	単位数コマ	5単位(76ｺﾏ)
教 員	小林聖 宮前勤	領域	専門	実務経験	小林:接骨院 宮前:施設
教科書	[小林] 柔道整復理論編 86P～149P治療法、競技者の外傷予防 [宮前] 柔整学校協会編、『柔道整復学・理論編 第6版』				
参考書	[小林] 病気が見えるシリーズ				
成績評価	[小林] 定期試験・出席日数・授業態度・小テスト [宮前] 前期定期試験、後期定期試験を総合して評価する				
評価基準	[小林] 定期試験基準をクリアすること。出席日数基準をクリアすること [宮前] 60点以上を合格とする。小テストの結果を加算する場合もある。75%以上の出席を要件とする				
到達目標	[小林] 柔道整復で行う各種治療法、指導管理の基礎を身につける。 損傷の評価や外傷予防についても柔道整復師に必要な知識として習得する。 [宮前] 肩関節部に特化した授業構成で、基礎医学から臨床までを体系的に知識を習得する。				
留意点					
授業外に必要な学習内容	[小林] 予習復習で教科書を読む。				
授業内容	[小林] 柔道整復師として接骨院での勤務経験を踏まえ、本科目では教科書とプリントを用いて治療法において 大切な部分を重点的に授業を行う。毎授業小テストを行い理解度の確認を行う。 [宮前] 柔道整復師として施設での勤務経験を踏まえ、機能解剖学の知識を基盤として肩関節疾患の病態生理を マスターする。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション・授業について	
2	診察	柔道整復理論
3	治療法、骨折の整復法	柔道整復理論
4	骨折の整復法2(非観血的整復の要点)	柔道整復理論
5	脱臼の整復法(非観血的整復の要点)	柔道整復理論
6	軟部組織処置方法(初期処置)	柔道整復理論
7	固定法(固定の目的)	柔道整復理論
8	手技療法(基本型・禁忌)	柔道整復理論
9	運動療法(他動運動・自動運動・等容性収縮・等張性収縮・等速性収縮	柔道整復理論
10	運動療法(OKC・CKC・単関節運動・多関節運動)	柔道整復理論

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
11	物理療法（電気療法・低周波・中周波・干渉波）	柔道整復理論
12	物理療法（温熱療法・伝導熱療法・輻射熱療法・変換熱療法）	柔道整復理論
13	物理療法（光線療法・寒冷療法・牽引療法）	柔道整復理論
14	指導管理・外傷予防	柔道整復理論
15	運動が生体に与える影響	競技者の外傷予防
16	運動とエネルギー代謝	競技者の外傷予防
17	運動と骨・筋肉	競技者の外傷予防
18	復習	テスト
19	まとめ	競技者の外傷予防
20	運動と呼吸・循環	競技者の外傷予防
21	運動とホルモン	競技者の外傷予防
22	競技者の運動生理学的特徴	競技者の外傷予防
23	競技者の外傷予防概論	競技者の外傷予防
24	メディカルチェック―評価と測定	競技者の外傷予防
25	ストレッチングの方法と実際	競技者の外傷予防
26	スポーツテーピングの方法と実際	競技者の外傷予防
27	スポーツテーピングの方法と実際	競技者の外傷予防
28	外傷予防に必要な筋力トレーニングの実際	競技者の外傷予防
29	外傷予防に必要な筋力トレーニングの実際2	競技者の外傷予防
30	柔道における肩関節の外傷予防	競技者の外傷予防

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
31	水泳における体幹の傷害予防	競技者の外傷予防
32	バスケットボールにおける膝関節の外傷予防	競技者の外傷予防
33	サッカーにおける足関節の外傷予防	競技者の外傷予防
34	成長期の外傷予防	競技者の外傷予防
35	高齢者の外傷予防	競技者の外傷予防
36	まとめ	競技者の外傷予防
37	復習	競技者の外傷予防
38	総復習	競技者の外傷予防
39	関節の構造と機能その１、年間計画	プロジェクター
40	関節の構造と機能その２	プロジェクター
41	関節損傷の発生機序、関節損傷の分類、靭帯損傷の分類と症状、靭帯損傷の治癒機序と予後	プロジェクター
42	関節周辺の筋・腱の損傷、関節軟骨損傷、関節唇の損傷、関節半月・円板の損傷、滑液包の損傷	プロジェクター
43	脱臼の定義、脱臼の分類	プロジェクター
44	脱臼の症状、脱臼の合併症、脱臼の整復障害、脱臼の経過と予後	プロジェクター
45	関節総論、脱臼総論の総まとめ、復習その１	プロジェクター
46	関節総論、脱臼総論の総まとめ、復習その２	プロジェクター
47	肩関節の機能解剖その１	プロジェクター
48	肩関節の機能解剖その２	プロジェクター
49	肩関節の機能解剖その３	プロジェクター
50	肩関節の機能解剖その４	プロジェクター

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
51	鎖骨骨折その1	プロジェクター
52	胸鎖関節脱臼、肩鎖関節脱臼	プロジェクター
53	肩甲骨骨折	プロジェクター
54	上腕骨近位端部骨折総論、上腕骨骨頭骨折、解剖頚骨折	プロジェクター
55	上腕骨外科頚骨折、大結節骨折、小結節骨折	プロジェクター
56	上腕骨近位骨端線離開 骨折総復習、テストガイダンス	プロジェクター
57	総復習。前期テストガイダンス	プロジェクター
58	前期テスト解説、総復習	プロジェクター
59	肩関節脱臼総論 肩関節前方脱臼その1	プロジェクター
60	肩関節前方脱臼その2	プロジェクター
61	肩関節後方脱臼、下方脱臼、上方脱臼	プロジェクター
62	反復性肩関節脱臼	プロジェクター
63	肩関節脱臼まとめその1	プロジェクター
64	肩関節脱臼まとめその2	プロジェクター
65	中間まとめ	プロジェクター
66	中間まとめ	プロジェクター
67	肩関節の軟部組織損傷 総論	プロジェクター
68	肩関節の軟部組織損傷その1	プロジェクター
69	肩関節の軟部組織損傷その2	プロジェクター
70	肩関節の軟部組織損傷その3	プロジェクター

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
71	肩関節の軟部組織損傷その4	プロジェクター
72	肩関節の軟部組織損傷その5	プロジェクター
73	肩関節の軟部組織損傷 総まとめその1	プロジェクター
74	肩関節の軟部組織損傷 総まとめその2	プロジェクター
75	後期テストガイダンス	
76	後期テスト解説 総まとめ	プロジェクター

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	柔道整復実技1	学科名	柔道整復	履修年次	1年次
		教授法	実技	単位数コマ	5単位(76コマ)
教 員	宮本義豊 村山晶子 小野真理恵 山田浩正	領域	専門	実務経験	接骨院
教科書	「柔道整復学理論編改定版第6版」 「柔道整復学実技実技編改定第2版」 「解剖学改定第2版」」 「包帯固定学改定第2版」				
参考書	「機能解剖学的触診実技」				
成績評価	定期試験(口頭試問および実技試験)、小テスト、出席日数等を踏まえ総合的に判断し評価する				
評価基準	各試験で60点以上で合格、欠席日数が出席日数の1/3を超えた場合は単位不認定とする				
到達目標	・正常な運動器の形態、機能面を理解することで人体の構成の理解度を深める ・基本包帯を中心に身体各所に応じた包帯固定を施せるようになる。 ・包帯の目的を理解し、基本包帯を中心に身体各所に応じた包帯固定を施せるようになる。				
留意点	・適宜に資料配布 ・欠席はたとえ一回であっても貴重な実習機会を失うことになる。安易に休まない。				
授業外に必要な学習内容	・解剖の知識、用語の理解度 ・この実習については復習が重要だが、実技内容を一人で復習することはとても難しい。クラス内で協力して、復習・練習の機会を積極的に持ってほしい。				
授業内容	柔道整復師として鍼灸接骨院、接骨院での勤務経験を踏まえ本科目では、 ・配布資料を基に講義を行い、併せて解剖の知識も取り入れていく。実際に身体に触れて触診技術を深めていく ・専門家として包帯など衛生材料を取り扱うために必要な知識を教授し、また施術者・患者の両方の立場を体験することで基本的な包帯法に加え、臨床現場での応用的な固定の考え方・包帯の技術を実習する。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	一年間の予定 ガイダンス	
2	肩甲骨	
3	上腕骨	
4	橈骨・尺骨	
5	手根骨	
6	指骨	
7	骨盤	
8	仙骨、仙腸関節	
9	大腿骨	
10	大腿骨頭	

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
11	足根骨	
12	距腿関節、リスフラン関節	
13	足の指骨	
14	頭蓋骨の名称	
15	頭蓋骨模型の組み立て	
16	三角筋、大胸筋	
17	回旋筋腱板の構成	
18	頚椎の構成とその作用	
19	定期試験	
20	広背筋と背部の筋について	
21	烏口腕筋、僧帽筋の触診	
22	肩甲挙筋、菱形筋の触診	
23	小胸筋、前鋸筋の触診	
24	上腕部の筋	
25	肘関節部周辺の筋について	
26	前腕屈筋群	
27	前腕伸筋群	
28	手部の筋	
29	骨盤部の筋	
30	縫工筋、大腿筋膜張筋	
31	大腿四頭筋、二頭筋	
32	膝関節部の周辺の筋	
33	下腿（前脛骨筋、長指伸筋、長短腓骨筋）	

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
34	下腿(後脛骨筋、下腿三頭筋)	
35	計測法	
36	可動域の測定	
37	定期試験	
38	総まとめ	
39	オリエンテーション	包帯、包帯固定学改訂第2版 筆記具、ノート
40	固定とは(目的・材料の種類) P1～7	包帯、包帯固定学改訂第2版 筆記具、ノート
41	包帯の基礎 P8～15	包帯、包帯固定学改訂第2版 筆記具、ノート
42	基本包帯(環行帯・螺旋帯・蛇行帯・折転帯) P16～18. P51	包帯、包帯固定学改訂第2版 筆記具、ノート
43	基本包帯(折転帯・亀甲帯) P17～19. P50～51	包帯、包帯固定学改訂第2版 筆記具、ノート
44	基本包帯(麦穂帯) P20～21. P48～49	包帯、包帯固定学改訂第2版 筆記具、ノート
45	復習	包帯、包帯固定学改訂第2版 筆記具、ノート
46	手関節部・手指部の包帯 P52～53	包帯、包帯固定学改訂第2版 筆記具、ノート
47	指の包帯 P53～55	包帯、包帯固定学改訂第2版 筆記具、ノート
48	指の包帯 P53～55	包帯、包帯固定学改訂第2版 筆記具、ノート
49	晒による固定(胸部・腰部) P80～82	包帯、包帯固定学改訂第2版 筆記具、ノート
50	復習・下腿部の包帯 P60～61	包帯、包帯固定学改訂第2版 筆記具、ノート
51	下腿部の包帯 P60～61	包帯、包帯固定学改訂第2版 筆記具、ノート
52	胸部・背部の包帯(胸十字帯・背十字帯) P67～70	包帯、包帯固定学改訂第2版 筆記具、ノート
53	応用包帯(固定の目的に合わせ基本に加えてレベルアップ)	包帯、包帯固定学改訂第2版 筆記具、ノート
54	復習	包帯、包帯固定学改訂第2版 筆記具、ノート
55	定期試験①	包帯
56	試験の振り返り・応用包帯	包帯、包帯固定学改訂第2版 筆記具、ノート

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
57	デゾー包帯　P22～31	包帯、包帯固定学改訂第2版 筆記具、ノート
58	デゾー包帯　P22～31	包帯、包帯固定学改訂第2版 筆記具、ノート
59	ヴェルポー包帯　P32～35	包帯、包帯固定学改訂第2版 筆記具、ノート
60	ヴェルポー包帯・ジュール包帯　P32～41	包帯、包帯固定学改訂第2版 筆記具、ノート
61	ジュール包帯　P36～41	包帯、包帯固定学改訂第2版 筆記具、ノート
62	三角巾による固定　P77～79	包帯、包帯固定学改訂第2版 筆記具、ノート
63	復習	包帯、包帯固定学改訂第2版 筆記具、ノート
64	頭部・顔面部の包帯(ヒポクラテス帽子帯・投石帯)　P42～47	包帯、包帯固定学改訂第2版 筆記具、ノート
65	股関節・大腿部の包帯　P56～58	包帯、包帯固定学改訂第2版 筆記具、ノート
66	膝関節・足関節部の包帯　P59. P62～64	包帯、包帯固定学改訂第2版 筆記具、ノート
67	足趾の包帯　P65～66	包帯、包帯固定学改訂第2版 筆記具、ノート
68	復習	包帯、包帯固定学改訂第2版 筆記具、ノート
69	足関節部の包帯の応用包帯	包帯、包帯固定学改訂第2版 筆記具、ノート
70	テーピング	包帯、包帯固定学改訂第2版 筆記具、ノート
71	応用包帯(固定の目的に合わせ基本に加えてレベルアップ)	包帯、包帯固定学改訂第2版 筆記具、ノート
72	応用包帯(固定の目的に合わせ基本に加えてレベルアップ)	包帯、包帯固定学改訂第2版 筆記具、ノート
73	復習	包帯、包帯固定学改訂第2版 筆記具、ノート
74	復習	包帯、包帯固定学改訂第2版 筆記具、ノート
75	定期試験②	包帯
76	試験の振り返り・まとめ	包帯、包帯固定学改訂第2版 筆記具、ノート

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	臨床実習1	学科名	柔道整復	履修年次	1年次
		教授法	実習	単位数コマ	1単位(23ｺﾏ)
教 員	宮前 勤　佐藤史人　小林 聖　関屋浩介 村山晶子　山田浩正　吉原貴宏	領域	専門	実務経験	接骨院 ,鍼灸接骨院

教科書	適宜プリントで代用
参考書	適宜プリントで代用
成績評価	中間評価表、最終評価表、デイリーノート、出席状況得等を総合する。
評価基準	60%以上を合格とする
到達目標	接骨院で柔道整復師として機能していることに実地に触れ、柔道整復師の職域を知る。加えて将来、医療従事者になることの大きな動機を得る。
留意点	実習指導者の指示に従うこと。利用者に対して人間性を尊重することを忘れず、誠意を持って対応し、馴れ馴れしい態度や言葉遣いは避けること。利用者に関する情報については秘密を守り、一切口外しないこと。施設内では慎重に行動し、利用者とのトラブルや未熟な対処による事故を防止するため十分に安全に心掛けること。
授業外に必要な学習内容	社会保障制度について自習しておくこと
授業内容	鍼灸師、柔道整復師として接骨院、鍼灸接骨院での勤務経験を踏まえ、本科目では付属臨床施設での臨床実習を行うことで、具体的な環境と対象に対する知識や技術の適用を教授する。また医療専門職従事者としての態度もこの実習で養う。

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
1	ガイダンス① 実習前準備	
2	ガイダンス② 医療接遇、個人情報保護法、記録方法	
3	臨床実習	
4	臨床実習	
5	臨床実習	
6	臨床実習	
7	臨床実習	
8	臨床実習	
9	臨床実習	

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
10	臨床実習	
11	臨床実習	
12	臨床実習	
13	臨床実習	
14	臨床実習	
15	臨床実習	
16	臨床実習	
17	臨床実習	
18	臨床実習	
19	臨床実習	
20	臨床実習	
21	臨床実習	
22	臨床実習	
23	報告会、礼状の指導	

〈2021年度〉

授 業 要 項

	研究法概論	学科名	柔道整復	履修年次	2年次
		教授法	講義	単位数コマ	5単位(38コマ)
教 員	小川貴志子	領域	基礎	実務経験	無

教科書	特になし
参考書	特になし
成績評価	グループワークや個人による授業内での発表、レポート（小レポートも含む）
評価基準	学則に準じる
到達目標	科学的手法を学び、自身の考えを客観的事実に基づいて論理的に伝える方法を理解する
留意点	
授業外に必要な学習内容	実験内容によっては、授業時間外での計測が必要となる
授業内容	研究を行う上で必要な知識を学習し、授業内で行うプレゼンテーションやレポート、論文の書き方に関する基礎を身につけることで論理的に自身の考えを述べられるようになることを目標に授業を展開する。研究計画、実験調査、統計処理を学び、3年次の卒業研究発表に向けた準備を行う。また、実験機材を実際に使用してデータの計測、解析方法、並びそのまとめ方を理解する。

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション	
2	研究の基礎ー研究論文の基礎知識、研究デザインの重要性について	
3	実験実習① ー グループワークによるヒトの形態や動きの計測	
4	データの整理と解析方法 ーエクセルを用いた実践ー	
5	データのまとめ方とグラフ作成	
6	論文の読み方と検索方法	
7	プレゼンテーション資料の作成 ーパワーポイントを用いた実践ー	
8	パワーポイントを用いたグループ発表	
9	実験実習② ーグループワークによる力と筋活動の計測	
10	計測データの解釈とその背景について	

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
11	データ解析方法の学習とデータのまとめ　ー平均・標準偏差・相関ー	
12	グループ発表②	
13	実験実習③ ーグループワークによる課題研究の決定と実験計測ー	
14	計測データの解釈とその背景について	
15	データ解析方法の学習と考察	
16	グループ発表③	
17	自由研究課題のテーマ発表と検討①	
18	自由研究課題のテーマ発表と検討②	
19	前期のまとめ　ー実験計画の作成ー	
20	研究計画の書き方　ーワードを用いた実践ー	
21	自由研究課題の研究計画の発表①	
22	自由研究課題の研究計画の発表②	
23	自由研究課題の実験計測①	
24	計測したデータの検討、研究計画の修正	
25	自由研究課題の実験計測②	
26	データ解析・データの解釈と考察	
27	自由研究課題の發表①	
28	自由研究課題の発表②	
29	自由研究課題の反省と卒業研究テーマの作成	
30	卒業研究の研究計画作成	

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
31	卒業研究テーマの発表	
32	卒業研究の実験	
33	卒業研究のデータ解析とまとめ	
34	卒業研究の発表会	
35	卒業研究の抄録作成	
36	卒業研究の抄録修正①	
37	卒業研究の抄録修正②	
38	まとめ	

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	生理学2	学科名	柔道整復	履修年次	2年次
		教授法	講義	単位数コマ	3単位(38コマ)
教 員	竹岡みち子	領域	専門基礎	実務経験	無

教科書	「生理学改定第3版」南江堂
参考書	必要に応じ適宜示唆解説する
成績評価	定期試験、小テスト(講義中実施)、及び出席状況に基づく総合判定
評価基準	定期試験で6割以上 (小テストを加味する)
到達目標	人体を構成する細胞、組織、器官の機能につき、個別の知識だけでなく、身体を統合した上での理解を深める
留意点	その日のうちに必ず教科書を読み返し復習すること
授業外に必要な学習内容	その日のうちに必ず毎回配布するプリントを復習し、教科書の該当部分を読み返す. また、小テストの準備をする. .
授業内容	教科書の内容を中心に、スライドを使用してわかりやすく解説して行く。前回の授業内容の理解度を把握するため、毎回授業前に小テストを行う。直後に解答を配布するが, これが授業一回ごとのまとめとなる

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	3.神経の生理	通年−教科書・スライド
2	3.神経の生理	
3	3.神経の生理	
4	3.神経の生理	
5	3.神経の生理	
6	4.運動の生理	
7	4.運動の生理	
8	4.運動の生理	
9	4.運動の生理	
10	4.運動の生理	

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
11	5.感覚の生理	
12	5.感覚の生理	
13	5.感覚の生理	
14	5.感覚の生理	
15	5.感覚の生理	
16	5.感覚の生理	
17	総括・復習	
18	まとめ	
19	前期試験解説	
20	6.内分泌	
21	6.内分泌	
22	6.内分泌	
23	6.内分泌	
24	6.内分泌	
25	6.内分泌	
26	6.内分泌	
27	7.生殖	
28	7.生殖	
29	8. 骨	
30	8. 骨	

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
31	9. 血液復習	
32	10.循環復習	
33	13. 栄養・代謝復習	
34	14. 消化・吸収復習	
35	まとめ(問題演習など)	
36	まとめ2	
37	総括・復習2	
38	後期試験解説	

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	病理学	学科名	柔道整復	履修年次	2年次
		教授法	講義	単位数コマ	1単位(15ｺﾏ)
教 員	加藤正裕	領域	専門基礎	実務経験	病院
教科書	病理学概論　全国柔道整復学校協会　監修　医歯薬出版				
参考書	標準病理学　医学書院（本学図書所蔵）				
成績評価	定期試験、出席状況などを総合的に評価する。				
評価基準	定期試験60点以上で合格、欠席日数が出席日数の1/3を超えた場合は単位不認定とする。				
到達目標	疾病の原因、成り立ち、人体への影響などに対する理解を通して患者の抱えている健康障害を把握することに役立て、有効な施術につなげる。				
留意点	1) 日々の復習を習慣化する。2) マイノートを作成する。				
授業外に必要な学習内容					
授業内容	医師として病院での勤務経験を踏まえ、「病理学概論」は病理学総論に相当し、医学・医療の最も基礎を教授する。病因、細胞傷害（退行性病変、代謝障害）、循環障害、炎症、免疫異常・アレルギー、腫瘍、先天異常について教科書や映像資料を用いて授業を行う。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	病理学とは、方法、疾病一般、病因	
2	細胞傷害（退行性病変）	
3	細胞傷害（代謝障害）	
4	細胞傷害（代謝障害）	
5	細胞傷害（細胞の死）	
6	循環障害	
7	進行性病変	
8	炎症	
9	免疫異常	
10	アレルギー	

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
11	移植	
12	腫瘍	
13	先天異常	
14	定期本試験	
15	定期本試験解説	

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	衛生学・公衆衛生学	学科名	柔道整復	履修年次	2年次
		教授法	講義	単位数コマ	1単位(15コマ)
教 員	加藤正裕	領域	専門基礎	実務経験	病院

教科書	衛生学・公衆衛生学　全国柔道整復学校協会　監修　南江堂
参考書	図説　国民衛生の動向 2018/2019　厚生労働統計協会　編
成績評価	定期試験、出席状況などを総合的に評価する。
評価基準	定期試験60点以上で合格、欠席日数が出席日数の1/3を超えた場合は単位不認定とする。
到達目標	健康の維持・増進を支える公衆衛生の仕組みや活動について理解し、施術や健康教育を含めた地域社会における活動に活かす。
留意点	1) 日々の復習を習慣化する。2) マイノートを作成する。
授業外に必要な学習内容	
授業内容	医師として病院での勤務経験を踏まえ、本科目では公衆衛生学の理念、健康の概念、疾病予防、健康管理、感染症の予防、消毒、環境衛生、生活環境・食品衛生活動、母子保健、学校保健、産業保健、成人・高齢者保健、精神保健、地域保健、国際保健、衛生行政、保健医療制度、医療の倫理と安全の確保、疫学について教科書や映像資料を用いて授業を行う。

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	公衆衛生学とは、理念、健康の定義	
2	疾病予防、健康管理	
3	健康の測定	
4	疫学	
5	感染症対策、消毒	
6	環境衛生	
7	生活環境・食品衛生活動	
8	母子保健	
9	学校保健・産業保健	
10	成人・高齢者保健	

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
11	精神保健	
12	地域保健	
13	国際保健･衛生行政	
14	定期本試験	
15	定期本試験解説	

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	リハビリテーション医学	学科名	柔道整復	履修年次	2年次
		教授法	講義	単位数コマ	2単位(25コマ)
教 員	安藤利泰　宮前 勤	領域	専門基礎	実務経験	安藤:病院 宮前:無
教科書	リハビリテーション医学				
参考書					
成績評価	定期試験				
評価基準	60パーセント以上				
到達目標	臨床家として、チームケアの重要性を認識し、リハビリテーション科などの医療機関との連携ができるように知識を学ぶ				
留意点					
授業外に必要な学習内容	適宜復習を課す				
授業内容	医師として病院での勤務経験を踏まえ、本科目ではリハビリテーションの基礎知識、リハビリテーションチームにおけるそれぞれの役割を理解し、疾患別リハビリテーションのプロセスを教授する。				

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
1	リハビリテーションの理念	
2	リハビリテーションの対象と障害者の実態	
3	リハビリテーション障害学	
4	リハビリテーション障害学	
5	慢性疼痛	
6	リハビリテーション医学の関連職種	
7	リハビリテーションの治療技術　①	
8	リハビリテーションの治療技術　②	
9	リハビリテーションの治療技術　③	
10	高齢者のリハビリテーション	

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
11	機能訓練指導員・脊髄損傷	
12	定期テスト	
13	まとめ	
14	国際障害分類ICIDH	
15	日常生活動作(ADL)の評価	
16	運動の障害の評価その１	
17	運動の障害の評価その２	
18	脳卒中のリハビリテーションその１	
19	脳卒中のリハビリテーションその２	
20	脳卒中のリハビリテーションその３	
21	神経変性疾患のリハビリテーションその１	
22	パーキンソン病のリハビリテーションその１	
23	パーキンソン病のリハビリテーションその２	
24	定期テスト	
25	まとめ	

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	一般臨床医学 1	学科名	柔道整復	履修年次	2年次
		教授法	講義	単位数コマ	3単位(38コマ)
教 員	西村和典	領域	専門基礎	実務経験	病院

教科書	一般臨床医学 (改定第3版)全国柔道整復学校協会監修:医歯薬出版
参考書	特に購入を薦める書籍はありませんが、「病気が見える」シリーズ(メディックメディア)から抜粋し、できるだけ提供します。
成績評価	定期試験2回、小テストとレポート提出を適宜(不定期)に実施・指示します。定期試験の成績とレポートが評価対象であり、小テストは基礎知識向上を目的とします。
評価基準	定期試験基準をクリアすること
到達目標	医療系従事者にとって内科診断学並びに疾患の基礎知識は全ての基本です。国家試験合格はもとより将来の仕事に役立つ学習をしましょう
留意点	
授業外に必要な学習内容	授業内容に対して復習すること
授業内容	医師として病院での勤務経験を踏まえ、基本は「講義」です。補助資料として種々のプリントを用意します。また音や映像も用いて一般臨床医学における診断から治療内容を理解しましょう。

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	診察概論・医療面接	プリント、画像などを適宜提供します
2	診察各論(視診)	
3	診察各論(打診・聴診・触診)	
4	生命徴候	
5	感覚検査と反射検査	
6	臨床症状	
7	検査法	
8	呼吸器疾患(1)	
9	呼吸器疾患(2)	
10	呼吸器疾患(3)	

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
11	循環器疾患(1)	
12	循環器疾患(2)	
13	循環器疾患(3)	
14	循環器疾患(4)	
15	消化器疾患(1)	
16	前半のまとめ-----7月最終週	
17	前期試験ガイダンス	
18	前期試験	
19	消化器疾患(2)　前期試験解説	
20	消化器疾患(3)	
21	消化器疾患(4)	
22	代謝疾患(1)	
23	代謝疾患(2)	
24	代謝疾患(3)	
25	内分泌疾患(1)	
26	内分泌疾患(2)	
27	内分泌疾患(3)	
28	内分泌疾患(4)	
29	血液疾患(1)	

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
30	血液疾患(2)	
31	血液疾患(3)	
32	腎疾患(1)	
33	腎疾患(2)	
34	腎疾患(3)	
35	腎疾患(4)	
36	後期試験ガイダンス	
37	後期試験	
38	一年のまとめ	

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	外科学	学科名	柔道整復	履修年次	2年次
		教授法	実技	単位数コマ	3単位(38コマ)
教 員	中島崇夫	領域	専門基礎	実務経験	病院
教科書	外科学概論				
参考書					
成績評価	定期試験による。				
評価基準	60%以上を合格とする。				
到達目標	柔道整復師として必要となる、基本的な外科学の習得と日常臨床に役立つ知識の習得を目指す。				
留意点					
授業外に必要な学習内容					
授業内容	医師として病院での勤務経験を踏まえ、本科目では教科書の項目に沿って教授する。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	1損傷	
2	1損傷	
3	2炎症と外科感染症	
4	2炎症と外科感染症	
5	3腫瘍	
6	4ショック	
7	5輸血、輸液	
8	6消毒と滅菌	
9	7手術	
10	8麻酔	

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
11	9移植と免疫	
12	10出血と止血	
13	11心肺蘇生法	
14	12脳神経外科疾患	
15	12脳神経外科疾患	
16	総論復習	
17	総論復習	
18	総論復習	
19	前期定期試験復習	
20	13甲状腺・頸部疾患	
21	14胸壁・呼吸器疾患	
22	14胸壁・呼吸器疾患	
23	15心臓・脈管疾患	
24	15心臓・脈管疾患	
25	15心臓・脈管疾患	
26	16乳腺疾患	
27	17腹部外科疾患	
28	17腹部外科疾患	
29	17腹部外科疾患	
30	各論復習	

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
31	各論復習	
32	国家試験対策	
33	国家試験対策	
34	国家試験対策	
35	国家試験対策	
36	国家試験対策	
37	国家試験対策	
38	後期定期試験復習	

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	柔道2	学科名	柔道整復	履修年次	2年次
		教授法	実技	単位数コマ	2単位(30ｺﾏ)
教 員	小林廣幸	領域	専門基礎	実務経験	接骨院
教科書	イラスト柔道の形(五月書房)				
参考書	柔道国際審判規定/DVD柔道の形				
成績評価	①学習態度②出席日数③定期試験(実技)				
評価基準	総合で60点以上を合格とする。				
到達目標	講道館規定による柔道1級程度の実力を身につける。				
留意点	怪我負傷防止,ピアス,ネックレスを外し、長髪の場合は束ねる。基本的には見学の際も柔道着を着て見学するものとする。				
授業外に必要な学習内容					
授業内容	柔道整復師として接骨院での勤務経験を踏まえ、本科目ではクラスで二人一組のペアを作り形,受身,約束乱取の講義を行う。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	事前説明 受身確認(投の形)	
2	投の形 確認	
3	投の形 解説	
4	投の形 手投…浮落・背負投・肩車・乱取技Ⅰ	
5	投の形 腰投…浮腰・払腰・釣込腰・乱取技・大内刈・小内刈	
6	投の形 足投…送足払・支釣込足・内股	
7	投の形 9本通して 乱取技解説Ⅱ	
8	投の形 乱取技解説Ⅲ	
9	投の形復習 自由乱取導入	
10	投の形復習 自由乱取(1)	

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
11	投の形　DVDによる説明投の形と受身	
12	投の形復習、乱取説明	
13	投の形復習、乱取技指導	
14	投の形復習　個々に指導　乱取	
15	投の形復習　自由乱取	
16	投の形復習　自由乱取	
17	定期試験	
18	投の形　テスト（受け身含）	
19	投の形　テスト（受け身含）	
20	寝技導入　固技（Ⅰ）	
21	寝技導入　固技（Ⅱ）	
22	締技解説　　寝技自由練習導入	
23	関節技解説　　寝技自由練習導入	
24	固技の入り方①　乱取	
25	投の形復習　固技の入り方②　乱取	
26	投の形復習　固技ののがれ方①　乱取	
27	投の形復習　寝技の連けい①　乱取	
28	投の形復習　寝技の連けい②　乱取	
29	定期試験	
30	まとめ	

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	基礎柔道整復学3	学科名	柔道整復	履修年次	2年次
		教授法	講義	単位数コマ	2単位(30ｺﾏ)
教 員	佐藤史人	領域	専門	実務経験	接骨院
教科書	柔道整復学・理論編改訂第6版P152～219・実技書　解剖学				
参考書	病気が見える整形外科				
成績評価	定期試験・出席日数・授業態度・小テスト				
評価基準	定期試験基準をクリアすること。出席日数基準をクリアすること。				
到達目標	柔道整復師に必要な頭部、顔面部、体幹部の各損傷の知識を習得する。				
留意点	各試験60点以上で合格。欠席日数が出席日数の1/3を超えた場合は単位不認定とする。				
授業外に必要な学習内容	予習復習で教科書を読む。				
授業内容	頭部・体幹部の損傷は生命の危機に直結する危険な損傷である。頭部・体幹部損傷の所見をしっかりと理解し、見逃すことのないようしっかり鑑別できる能力を身に付ける。柔道整復師として接骨院での勤務経験を踏まえ、本科目では教科書とプリントを用いて大切な部分を重点的に授業を行う。毎授業小テストを行い理解度の確認を行う。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	ガイダンス	パワーポイント・プリント
2	頭部・顔面部の構造と機能	パワーポイント・プリント
3	頭蓋冠・頭蓋底骨折	パワーポイント・プリント
4	頭部損傷（脳震盪・急性硬膜外血腫・急性硬膜下血腫、脳圧亢進症）	パワーポイント・プリント
5	顔面頭蓋骨折（鼻骨、上顎骨、頬骨、下顎骨）	パワーポイント・プリント
6	顎関節脱臼	パワーポイント・プリント
7	頭部・顔面部の打撲、顎関節症	パワーポイント・プリント
8	頚椎の構造と機能	パワーポイント・プリント
9	頚椎の骨折①（上位頸椎骨折）	パワーポイント・プリント
10	頚椎の骨折②（下位頚椎骨折）、頚椎脱臼	パワーポイント・プリント

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
11	外傷性頚部症候群（むち打ち）	パワーポイント・プリント
12	胸郭出口症候群	パワーポイント・プリント
13	寝違え、斜頸、頚椎ヘルニア、頚椎症、OPLL	パワーポイント・プリント
14	外傷性腕神経叢損傷、副神経・長胸神経麻痺	パワーポイント・プリント
15	まとめ①（頭部・顔面部）	パワーポイント・プリント
16	まとめ②（頚部）	パワーポイント・プリント
17	胸・背部の構造と機能	パワーポイント・プリント
18	肋骨骨折	パワーポイント・プリント
19	胸骨骨折、胸椎骨折①	パワーポイント・プリント
20	胸椎骨折②、胸椎部脱臼	パワーポイント・プリント
21	胸・背部の軟部組織損傷	パワーポイント・プリント
22	腰部・仙骨部の解剖と機能	パワーポイント・プリント
23	下位腰椎圧迫骨折	パワーポイント・プリント
24	腰椎の骨折（チャンス骨折・椎体破裂骨折・肋骨突起骨折）・脱臼	パワーポイント・プリント
25	腰部の軟部組織損傷（関節性・靱帯性・筋、筋膜性）・その他の疾患・	パワーポイント・プリント
26	腰椎椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症	パワーポイント・プリント
27	頭部・体幹部の姿勢評価	パワーポイント・プリント
28	頭部・体幹部の検査法	パワーポイント・プリント
29	まとめ①（胸部・背部）	パワーポイント・プリント
30	まとめ②（腰部・仙部）	パワーポイント・プリント

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	基礎柔道整復学4	学科名	柔道整復	履修年次	2年次
		教授法	実技	単位数コマ	2単位(30ｺﾏ)
教 員	佐藤史人	領域	専門	実務経験	接骨院
教科書	全国柔道整復学校協会「柔道整復学・理論編」改訂版第6版、南江堂				
参考書	配布資料				
成績評価	小テスト、出席、定期試験にて評価する。定期試験は2回実施する。				
評価基準	定期試験は60%以上であること。欠席は授業日数の1/3以上で単位不認定とする。				
到達目標	前腕部の骨折についての知識を深める。				
留意点					
授業外に必要な学習内容	授業でその都度説明する。				
授業内容	柔道整復師として接骨院での勤務経験を踏まえ、本科目では次のことを教授する。 ・前腕から手指の骨折について学ぶ。 ・柔道整復理論の教科書に沿ってプリントで解説する。 ・前腕から手指の骨折は各種スポーツ、労働、日常生活においても多くみられる損傷である。 ・各骨の特徴を確認しながら、なぜ骨折が発生しやすいのか、どのような症状、合併症があるかなどを学ぶ。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	ガイダンス	プロジェクター
2	手関節部の機能解剖①	プロジェクター
3	手関節部の機能解剖②	プロジェクター
4	橈骨遠位端部骨折その①（コ―レス骨折）	プロジェクター
5	橈骨遠位端部骨折その②（コ―レス・スミス骨折）	プロジェクター
6	橈骨遠位端部骨折その③（バートン・ショーファー骨折）	プロジェクター
7	手根骨骨折その①（舟状骨骨折）	プロジェクター
8	手根骨骨折その②（舟状骨以外の骨折）	プロジェクター
9	遠位橈尺関節脱臼・橈骨手根関節脱臼・月状骨脱臼・月状骨周囲脱臼	プロジェクター
10	TFCC損傷、ド・ケルバン病	プロジェクター

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
11	手根管症候群・ギヨン管症候群	プロジェクター
12	キーンベック（Kienbock）病・マーデルング変形	プロジェクター
13	前腕・手関節部の徒手検査法	プロジェクター
14	まとめ①	プロジェクター
15	まとめ②	プロジェクター
16	中手骨骨折その①	プロジェクター
17	中手骨骨折その②	プロジェクター
18	指骨骨折その①（基節骨）	プロジェクター
19	指骨骨折その②（中節骨）	プロジェクター
20	指骨骨折その③（末節骨）	プロジェクター
21	CM関節、MP関節脱臼	プロジェクター
22	PIP関節、DIP関節脱臼	プロジェクター
23	MP関節、PIP関節、DIP関節側副靱帯損傷	プロジェクター
24	ロッキングフィンガー	プロジェクター
25	ばね指	プロジェクター
26	デュプイトラン拘縮、ヘバーデン（Heberden）結節	プロジェクター
27	ボタン穴変形、スワンネック変形	プロジェクター
28	マレットフィンガー	プロジェクター
29	まとめ	プロジェクター
30	総まとめ	プロジェクター

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	臨床柔道整復学2	学科名	柔道整復	履修年次	2年次
		教授法	講義・実習	単位数コマ	5単位(76コマ)
教 員	村山晶子 佐藤史人	領域	専門	実務経験	接骨院

教科書	柔道整復学・理論編 改訂版第6版、柔道整復学・実技編 改訂版第2版 全国柔道整復学校協会監修「柔道整復・理論編」改訂版第6版
参考書	配布資料
成績評価	小テスト、出席、定期試験を総合的に評価する。
評価基準	定期試験60点以上で合格、欠席日数が出席日数の1/3を超えた場合は単位不認定とする。
到達目標	下肢(下腿部、足関節部)の運動器疾患を学び、鑑別能力を身につける。
留意点	
授業外に必要な学習内容	[村山] 骨盤部、股関節部～足部の筋骨格系の解剖学的知識を予習すること。 [佐藤] 授業でその都度説明する。
授業内容	[村山] 柔道整復師として接骨院での勤務経験を踏まえ、本科目では教科書とプリントを用いて理解を深める。 講義では解剖学・運動学をしっかり学ぶことで、損傷に対する臨床的な知識を身につける。 [佐藤] 下腿部・足部の骨折、脱臼、軟部組織損傷についての講義を行っていく。下腿部、足部の損傷のなかでも特に足関節は荷重関節であり、スポーツ活動だけでなく、就労、日常生活においても多く損傷がみられる。接骨院、整骨院でも多く見られる損傷の一つである。柔道整復師として接骨院での勤務経験を踏まえ、本授業では解剖学・運動学をしっかり学ぶことで正常な形態・機能を身に付け、損傷が生じた際にはどのような症状があるのか、他の疾患との鑑別方法、理学検査を身に付ける。

授業内容(村山)

日 程	内 容	使用機材等
1	ガイダンス	プロジェクター
2	骨盤部の解剖と機能	プロジェクター
3	骨盤部の解剖と機能	プロジェクター
4	骨盤骨単独骨折	プロジェクター
5	骨盤骨単独骨折	プロジェクター
6	骨盤骨輪骨折	プロジェクター
7	股関節部の解剖と機能	プロジェクター
8	股関節部の解剖と機能	プロジェクター
9	大腿部近位端部骨折	プロジェクター
10	大腿部近位端部骨折	プロジェクター

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
11	股関節脱臼	プロジェクター
12	股関節の軟部組織損傷	プロジェクター
13	股関節の軟部組織損傷	プロジェクター
14	股関節の軟部組織損傷	プロジェクター
15	まとめ①	プロジェクター
16	大腿部の解剖と機能	プロジェクター
17	大腿部の解剖と機能	プロジェクター
18	大腿骨骨幹部骨折	プロジェクター
19	試験解説①	プロジェクター
20	大腿部の軟部組織損傷	プロジェクター
21	大腿部の軟部組織損傷	プロジェクター
22	膝関節の解剖と機能	プロジェクター
23	膝関節の解剖と機能	プロジェクター
24	膝関節の解剖と機能	プロジェクター
25	大腿骨遠位端部骨折	プロジェクター
26	大腿骨遠位端部骨折、脛骨近位端部骨折	プロジェクター
27	脛骨近位端部骨折	プロジェクター
28	膝関節脱臼	プロジェクター
29	膝蓋骨骨折、膝蓋骨脱臼	プロジェクター
30	膝関節部の軟部組織損傷	プロジェクター

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
31	膝関節部の軟部組織損傷	プロジェクター
32	膝関節部の軟部組織損傷	プロジェクター
33	膝関節部の軟部組織損傷	プロジェクター
34	膝関節部の軟部組織損傷	プロジェクター
35	膝関節部の軟部組織損傷	プロジェクター
36	膝関節部の軟部組織損傷	プロジェクター
37	まとめ②	プロジェクター
38	試験解説②	プロジェクター
39	ガイダンス	プロジェクター
40	下腿部の解剖学 （骨、筋〔コンパートメント〕、血管、神経）	プロジェクター
41	下腿骨骨幹部骨折　脛骨単独骨折	プロジェクター
42	下腿骨骨幹部骨折　脛腓両骨骨折	プロジェクター
43	下腿骨骨幹部骨折　腓骨単独骨折	プロジェクター
44	下腿骨骨幹部骨折　下腿骨果上骨折	プロジェクター
45	下腿骨骨幹部骨折　下腿骨疲労骨折	プロジェクター
46	下腿部軟部組織損傷　アキレス腱炎・周囲炎	プロジェクター
47	下腿部軟部組織損傷　アキレス腱断裂①	プロジェクター
48	下腿部軟部組織損傷　アキレス腱断裂②	プロジェクター
49	下腿部軟部組織損傷　下腿三頭筋肉離れ	プロジェクター
50	下腿部軟部組織損傷　過労性脛部痛（シンスプリント）	プロジェクター

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
51	下腿部軟部組織損傷　コンパートメント症候群	プロジェクター
52	足関節部の解剖学・運動学①	プロジェクター
53	足関節部の解剖学・運動学②	プロジェクター
54	下腿骨遠位端部骨折　果部骨折①	プロジェクター
55	下腿骨遠位端部骨折　果部骨折②	プロジェクター
56	まとめ及び演習	プロジェクター
57	試験の解答、解説	プロジェクター
58	下腿骨遠位端部骨折　果部骨折③	プロジェクター
59	足根骨骨折　距骨骨折、踵骨骨折①	プロジェクター
60	足根骨骨折　踵骨骨折②	プロジェクター
61	足関節部の軟部組織損傷　足関節捻挫①	プロジェクター
62	足関節部の軟部組織損傷　足関節捻挫②	プロジェクター
63	足関節部の軟部組織損傷　足関節捻挫③、類別疾患	プロジェクター
64	足趾・足部の運動学・解剖学	プロジェクター
65	足根骨の骨折　舟状骨骨折	プロジェクター
66	足根骨の骨折　立方骨、楔状骨骨折	プロジェクター
67	中足骨の骨折①	プロジェクター
68	中足骨の骨折②	プロジェクター
69	足部軟部組織損傷　ショパール、リスフラン関節症	プロジェクター
70	足部軟部組織損傷　扁平足障害	プロジェクター

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
71	足部軟部組織損傷　骨端症(セーバー病、第1、2ケーラー病)	プロジェクター
72	足部軟部組織損傷　有痛性三角骨、外脛骨障害	プロジェクター
73	足部軟部組織損傷　足底筋膜炎、足根管症候群	プロジェクター
74	足部軟部組織損傷　外反母趾	プロジェクター
75	まとめ及び演習	プロジェクター
76	総まとめ	プロジェクター

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	柔道整復実技2	学科名	柔道整復	履修年次	2年次
		教授法	講義	単位数コマ	5単位(76コマ)
教 員	宮前 勤　山田浩正	領域	専門	実務経験	施設
教科書	柔整学校協会編、『柔道整復学・実技編 第2版』 柔道整復実技編				
参考書	柔道整復学理論編第6版、機能解剖学的触診技術上肢編(メジカルビュー社) プリント				
成績評価	定期試験・中間試験・小テスト・出席日数・授業態度				
評価基準	60点以上を合格とする。				
到達目標	評価、診断 整復・固定の応用能力を磨き、現場で使える技術を習得する。				
留意点	欠席なきよう厳しく指導する。身だしなみも徹底して指導する。装飾品は全て外すこと。				
授業外に必要な学習内容	柔道整復学 理論編の復習を求める実技を中心に授業を行うため座学知識を予習復習しておくこと。				
授業内容	柔道整復師として施設での勤務経験を踏まえ、3年時の認定実技試験をみすえて授業を展開する。 実技を中心に授業を行うため座学知識を予習復習しておくこと。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	ROM測定法その1	
2	ROM測定法その2	
3	ROM測定法その3	
4	MMT測定法その1	
5	MMT測定法その2	
6	鎖骨骨折 診察、整復法その1	
7	鎖骨骨折 固定法その1	
8	鎖骨骨折 固定法その2	
9	前期テスト 評価法 筆記試験	
10	肩鎖関節脱臼 診察、整腹法	

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
11	肩鎖関節脱臼 固定法	
12	腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷 徒手検査法	
13	肩関節脱臼 整復その1	
14	肩関節脱臼 整復その2、固定その1	
15	肩関節脱臼 固定その2	
16	上腕骨外科頚骨折外転型 診察、整復	
17	上腕骨骨幹部骨折　固定法 ミッテルドルフ	
18	肘関節後方脱臼整腹法 前期テストガイダンス	
19	肘関節後方脱臼 固定法	
20	肘内障	
21	金属シーネ作成	
22	コーレス骨折 整復その1	
23	コーレス骨折 整復その2、固定その1	
24	コーレス骨折 固定その2	
25	スミス骨折 整復	
26	スミス骨折 固定	
27	舟状骨骨折 整復	
28	舟状骨骨折 固定	
29	ボクサー骨折 整復	
30	ボクサー骨折　固定	

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
31	基節骨骨折 整復	
32	基節骨骨折 固定	
33	中節骨骨折 整復	
34	中節骨骨折 固定	
35	後期試験 固定	
36	PIP関節背側脱臼 固定	
37	PIP関節背側脱臼 固定	
38	まとめ	
39	オリエンテーション	シラバス
40	足関節外側側副靱帯損傷　評価法	絆創膏
41	足関節外側側副靱帯損傷　RICE処置（アイシング）	ラップ　氷　ビニル袋
42	足関節外側側副靱帯損傷　絆創膏固定①	絆創膏
43	足関節外側側副靱帯損傷　絆創膏固定②	綿包帯
44	足関節外側側副靱帯損傷　厚紙副子固定	綿包帯　厚紙副子
45	大腿四頭筋肉ばなれ・筋打撲　徒手検査	ラップ　氷　ビニル袋
46	大腿四頭筋肉ばなれ・筋打撲　徒手検査	
47	ハムストリングス肉ばなれ　徒手検査	絆創膏
48	ハムストリングス肉ばなれ　RICE処置（絆創膏固定）	絆創膏
49	前期中間試験	綿包帯
50	膝関節側副靱帯損傷　検査法	絆創膏

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
51	膝関節側副靱帯損傷　RICE処置（絆創膏固定）	
52	前十字・後十字靱帯損傷　検査法	
53	前十字・後十字靱帯損傷　後療法	
54	半月板損傷　評価法	
55	半月板損傷　評価法	
56	前期期末試験	
57	前期期末試験	
58	下腿三頭筋損傷　評価法	
59	下腿三頭筋損傷　評価法	
60	下肢シーネ作り（アキレス腱損傷・下腿骨幹部骨折）	クラーメル金属副子
61	アキレス腱断裂　評価法	
62	アキレス腱断裂　固定法	綿包帯　シーネ 厚紙副子
63	アキレス腱断裂　キャスト固定	キャストライト オルテックス
64	下腿骨幹部骨折　固定法	綿包帯　シーネ 厚紙副子
65	下腿骨幹部骨折　固定法	綿包帯　シーネ 厚紙副子
66	後期中間試験	厚紙副子、綿包帯
67	後期中間試験	厚紙副子、綿包帯
68	膝関節脱臼　評価法　整復法	
69	膝関節周囲軟部組織損傷　評価法	
70	膝関節周囲軟部組織損傷　評価法	

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
71	足趾の脱臼　評価法　整復法	アルミ副子　厚紙副子、綿包帯
72	足趾の骨折　評価法　整復法	アルミ副子　厚紙副子、綿包帯
73	肋骨骨折　固定法	厚紙副子 さらし
74	後期期末試験	クラーメル副子、厚紙副子、綿包帯　さらし
75	後期期末試験	クラーメル副子、厚紙副子、綿包帯　さらし
76	総まとめ	

<2021年度>

授 業 要 項

科　目	解剖学3	学科名	柔道整復	履修年次	3年次
		教授法	講義	単位数コマ	1単位(13コマ)
教　員	増田裕次	領域	専門基礎	実務経験	無
教科書	解剖学　公益社団法人全国柔道整復学校協会監修　改訂第2版				
参考書					
成績評価	定期テスト、出席などから判断する				
評価基準	60点以上を合格とする				
到達目標	脈管系、内臓系、内分泌系の正常な構造及び機能を理解し、設問に正しく答えられる。				
留意点					
授業外に必要な学習内容					
授業内容	「解剖学」のうち、人体解剖学概説、脈管系、内臓系、内分泌系について、各器官の位置、構造的特徴及び機能について、講義と演習を行う。				

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
1	内臓－消化器（1） 口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸	
2	内臓－消化器（2） 膵臓、肝臓、腹膜	
3	内臓－呼吸器	
4	内臓－泌尿器	
5	内臓－生殖器	
6	内分泌系	
7	脈管（1） 血管、心臓	
8	脈管（2） 頭頚部と体幹の脈管	
9	脈管（3） 上肢の脈管	
10	脈管（4） 下肢の脈管	
11	脈管（5） リンパ	
12	定期試験	
13	定期試験解説	

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	運動学 Kinesiology	学科名	柔道整復	履修年次	3年次
		教授法	講義	単位数コマ	3単位(38ｺﾏ)
教 員	宮坂 卓治	領域	専門基礎	実務経験	接骨院

教科書	運動学(改訂第3版) 全国柔道整復学校協会監修:医歯薬出版
参考書	参考書、問題集等必要なものがある場合、事前に連絡します。お持ちでない方は必ず購入して下さい。
成績評価	定期試験(2回)90%、小テスト(35回程度)10%にて評価します。
評価基準	
到達目標	1. 身体運動を科学的に理解し、説明することができる。 2. 運動の正常値を理解し、異常運動を捕らえることができる。 3. 運動器の正常と異常を理解し、説明することができる。 4. 柔道整復師国家試験における運動学範囲の出題形式や問題内容を理解し、正解を導くことができる。
留意事項	毎時間小テストを行いますので、授業の復習をしっかり行いましょう。 授業中の飲食、私語、携帯電話の操作など、他人の迷惑になる行為はやめましょう。 尚、授業形態は対面授業形態を予定しておりますが、やむを得ず遠隔授業になる場合もあります。その場合の成績評価方法は、通常とは若干異なる場合も想定されます。変更があった場合、速やかにご連絡いたしますが、予めご了承ください。
授業外に必要な学習内容	
授業概要	柔道整復師として接骨院での勤務経験を踏まえ、運動学は身体運動を科学的に研究する学問です。 人間の運動に関わる正常な構造と機能について学びましょう。 この授業は主に講義形式ですが、適宜ペアワークおよびディスカッションを実施します。 「授業外に必要な学習内容」 解剖学、生理学が基礎となる科目です。1～2年次に学習した内容を見直して、授業に備えましょう。予習として教科書に書かれている語句(これまでに学修したもの)の意味を調べてから授業に臨んでください。復習として、授業最後にその日の授業のまとめをします。その際、最重要箇所を示しますので指定されたものを覚えてきて下さい。次の授業のはじめに小テストを行い理解度を確認します。予習には各回45分程度、復習にも各回45分程度の時間が必要と思われます。 「ディプロマポリシーとの関連性」 医療従事者として必要な知識の習得に該当します。

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	「運動学の目的、運動の表し方」 教科書P1-8までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
2	「身体運動と力学1(身体運動に関する力、人体における単一機械構造)」 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書P9-15までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
3	「身体運動と力学2(滑車と輪軸、力学的有利性、運動法則)」 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書P15-19までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
4	「仕事と力学的エネルギー、運動器の構造と機能」 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書P20-26までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
5	「骨の発生と成長、関節の構造と機能」 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書P27-31までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
6	「骨格筋の構造と機能」 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書P32-36までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
7	「筋収縮の様態、神経の構造と機能」 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書P36-43までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
8	「末梢神経、中枢神経」 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書P44-49までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
9	「錐体路と錐体外路、運動感覚」 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書P50-55までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
10	「反射と随意運動」 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書P57-61までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
11	「延髄・橋が関与する反射、随意運動」 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書P62-68までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
12	「四肢と体幹の運動」 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書P69-73までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
13	「上肢帯の筋」 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書P73-77までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
14	「肩関節の運動」 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書P78-83までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
15	「肩関節の運動、肘関節と前腕の運動」 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書P84-92までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
16	「肘関節と前腕の運動、手関節と手の運動」 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書P92-97までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
17	「屈筋支帯・伸筋支帯、手関節と指の運動」 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書P97-105までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
18	「手関節と手の運動」 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書P106-113までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
19	前半のまとめおよび試験 試験と問題の解説およびグループワークを行います。 教科書P1-103までを復習し、試験に臨みましょう。	プロジェクター
20	「股関節の運動」 小テストを行うので、前々回の講義内容をまとめましょう。 教科書P114-118までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
21	「股関節の筋」 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書P119-124までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
22	「股関節の運動」 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書P114-130までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
23	「足関節と足部の運動」 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書P131-134までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
24	「足の筋」 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書P135-143までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
25	「足のアーチ」 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書P143-147までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
26	「体幹脊柱の運動」 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書P147-153までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
27	「頚部の筋」 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書P153-160までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
28	「胸椎と胸郭の運動」 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書P161-168までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
29	「腰椎の運動、腰椎の筋、顔面および頭部の運動」 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書P168-176までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
30	「姿勢」 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書P177-183までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
31	「立位姿勢の制御」 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書P183-188までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
32	「歩行」 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書P189-196までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
33	「歩行の運動学的分析、歩行時の筋活動」 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書P197-203までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
34	「歩行のエネルギー代謝、走行、異常歩行」 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書P204-211までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
35	「運動発達」 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書P213-216までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
36	「運動発達（全身運動、歩行運動、上肢の発達）」 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書P216-223までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
37	後半のまとめおよび試験 試験と問題の解説およびグループワークを行います。 教科書P103-223までを復習し、試験に臨みましょう。	プロジェクター
38	「運動学習」 小テストを行うので、前々回の講義内容をまとめましょう。 教科書P225-230までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	高齢者の生理学的特徴・変化	学科名	柔道整復	履修年次	3年次
		教授法	講義	単位数コマ	1単位(13ｺﾏ)
教 員	奥村雅代	領域	専基	実務経験	無
教科書	解剖学　公益社団法人全国柔道整復学校協会監修　改訂第2版 生理学　公益社団法人全国柔道整復学校協会監修　改訂第2版				
参考書					
成績評価	定期テスト、出席などから判断する。				
評価基準	60点以上を合格とする				
到達目標	神経系を中止に、正常な構造と機能および高齢者や競技者における変化を理解し、設問に正しく答えられる。				
留意点					
授業外に必要な学習内容					
授業内容	「解剖学」「生理学」を踏まえ、神経系を中心に構造的特徴及び機能について、それらを含めた全身に成長、加齢、運動訓練等が与える影響について講義と演習を行う。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	細胞、組織の加齢現象	
2	臓器機能の加齢変化 ―神経―	
3	臓器機能の加齢変化 ―運動器①―	
4	臓器機能の加齢変化 ―運動器②―	
5	臓器機能の加齢変化 ―感覚器―	
6	臓器機能の加齢変化 ―循環器―	
7	臓器機能の加齢変化 ―呼吸器―	
8	臓器機能の加齢変化 ―消化器―	
9	臓器機能の加齢変化 ―皮膚―	
10	高齢者の疾患と障害①	
11	高齢者の疾患と障害②	
12	定期試験	
13	定期試験解説	

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	競技者の生理学的特徴・変化	学科名	柔道整復	履修年次	3年次
		教授法	講義	単位数コマ	1単位(13ｺﾏ)
教 員	海野俊平	領域	専門基礎	実務経験	無
教科書	解剖学　公益社団法人全国柔道整復学校協会監修　改訂第2版 生理学　公益社団法人全国柔道整復学校協会監修　改訂第2版				
参考書					
成績評価	定期テスト、出席などから判断する。				
評価基準	60点以上を合格とする				
到達目標	神経系を中止に、正常な構造と機能および高齢者や競技者における変化を理解し、設問に正しく答えられる。				
留意点					
授業外に必要な学習内容					
授業内容	「解剖学」「生理学」を踏まえ、神経系を中心に構造的特徴及び機能について、それらを含めた全身に成長、加齢、運動訓練等が与える影響について講義と演習を行う。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	運動と加齢	
2	運動と発育 ―発育特性―	
3	運動と発育 ―骨、筋―	
4	運動と発育 ―呼吸器―	
5	運動と発育 ―循環器―	
6	運動と発育 ―運動量、習熟―	
7	競技者の生理的特徴 ―筋と心肺機能①―	
8	競技者の生理的特徴 ―筋と心肺機能②―	
9	競技者の生理的特徴 ―神経―	
10	競技者の生理的特徴 ―眼球運動―	
11	競技者の生理的特徴 ―姿勢―	
12	定期試験	
13	定期試験解説	

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	一般臨床医学2 General clinical medicine 2	学科名	柔道整復	履修年次	3年次
		教授法	講義	単位数コマ	2単位(25コマ)
教 員	宮坂卓治	領域	専門基礎	実務経験	接骨院

教科書	一般臨床医学(改訂第3版)全国柔道整復学校協会監修:医歯薬出版
参考書	参考書、問題集等必要なものがある場合、事前に連絡します。お持ちでない方は必ず購入して下さい。
成績評価	定期試験(2回)90%、小テスト(20回程度)10%にて評価します。 定期試験の解答例・解説は、まとめの授業でにフィードバックします。 小テスト(理解度確認テスト)の解答解説は毎時間行い、その都度フィードバックすます。
評価基準	
到達目標	1. 代表的な内科的疾患を、主要臓器別に列挙できるようにしましょう。 2. これら内科的疾患の病態生理、診断、治療方法を説明することができるようにしましょう。 3. 現代医療における主要な課題について説明できるようにしましょう。 4. 柔道整復師国家試験における一般臨床医学範囲の出題形式や問題内容を理解し正解を導く事ができるようにしましょう。
留意事項	毎時間小テストを行いますので、授業の復習をしっかり行いましょう。 授業中の飲食、私語、携帯電話の操作など、他人の迷惑になる行為はやめましょう。 尚、授業形態は対面授業形態を予定しておりますが、やむを得ず遠隔授業になる場合もあります。その場合の成績評価方法は、通常とは若干異なる場合も想定されます。変更があった場合、速やかにご連絡いたしますが、予めご了承ください。
授業外に必要な学習内容	
授業内容	柔道整復師として接骨院での勤務経験を踏まえ、主に内科領域(神経疾患、感染症、自己免疫疾患、アレルギー、環境要因による疾患)の代表的疾患について、病因・病態、症状、検査所見、治療法・予後を系統的に講義します。柔道整復領域の外傷・障害の鑑別診断を行う上で重要な内容になるため、しっかり学習しましょう。 椎間関節の捻挫と思っていたら、癌の骨転移だった。という様なケースは現場では決して稀なことではありません。将来の医療従事者として、緊張感を持って講義に臨まれることを期待します。 この授業は主に講義形式ですが、適宜ペアワークおよびディスカッションを実施します。 「授業外に必要な学習内容」 解剖学、生理学、病理学が基礎となる科目です。1～2年次に学習した内容を見直して、授業に備えましょう。 予習として教科書に書かれている語句(これまでに学修したもの)の意味を調べてから授業に臨んでください。復習として、授業最後にその日の授業のまとめをします。その際、最重要箇所を示しますので指定されたものを覚えてきて下さい。次の授業のはじめに小テストを行い理解度を確認します。予習には各回45分程度、復習にも各回45分程度の時間が必要と思われます。 「ディプロマポリシーとの関連性」 医療従事者として必要な知識の習得に該当します。

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	【タイトル】神経疾患総論1 【到達目標】 意識障害、認知症、筋力低下、麻痺について説明できる。 【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 【備 考】 教科書 p220－222までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
2	【タイトル】神経疾患総論2 【到達目標】歩行障害、運動失調、不随意運動、嚥下障害、めまいについて説明できる。 【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 【備 考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p222－227までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
3	【タイトル】神経疾患総論3、各疾患1 【到達目標】頭痛、感覚障害、脳血管障害について説明できる。 【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 【備 考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書 p227－230までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
4	【タイトル】各疾患2（腫瘍性疾患など） 【到達目標】腫瘍性疾患、感染性疾患、機能性疾患、認知症について説明できる。 【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 【備　考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書　p230－233までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
5	【タイトル】各疾患3（炎症性疾患など） 【到達目標】パーキンソン病、パーキンソン症候群、運動ニューロン疾患、炎症性疾患、神経免疫疾患、筋疾患について説明できる。 【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 【備　考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書　p233－236までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
6	【タイトル】感染症1（総論） 【到達目標】感染が成立する要因、宿主と病原体の相互関係、外因性感染と内因性感染、病原体の感染経路について説明できる。 【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 【備　考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書　p236－240までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
7	【タイトル】感染症2（総論2）、各疾患1（呼吸器感染症など） 【到達目標】感染症発症後の経過と感染形態、市中感染と院内感染、日和見感染、感染症の診断、感染症の治療、呼吸器感染症、尿路感染症について説明できる。 【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 【備　考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書　p240－244までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
8	【タイトル】各疾患3（中枢神経感染症など） 【到達目標】中枢神経感染症、皮膚感染症、整形外科領域感染症、性行為感染症、その他の感染症について説明できる。 【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 【備　考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書　p245－249までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
9	【タイトル】その他の感染症、リウマチ・膠原病・アレルギー1 【到達目標】嫌気性菌感染症、膠原病の病因・病態、関節リウマチについて説明できる。 【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 【備　考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書　p249－254までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
10	【タイトル】リウマチ・膠原病・アレルギー2 【到達目標】全身性エリテマトーデス、強皮症、多発性筋炎・皮膚筋炎シェーグレン症候群、ベーチェット病について説明できる。 【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 【備　考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書　p254－259までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
11	【タイトル】リウマチ・膠原病・アレルギー3 【到達目標】結節性多発動脈炎、リウマチ性多発筋痛症、リウマチ熱、アレルギーについて説明できる。 【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 【備　考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書　p259－263までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
12	【タイトル】環境要因による疾患 【到達目標】熱中症、一酸化炭素中毒について説明できる。 【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 【備　考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書　p263－264までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
13	【タイトル】まとめ1 【到達目標】神経疾患、感染症、リウマチ・膠原病、アレルギー、環境要因による疾患についてのまとめ 【授業形態】 まとめ、中間試験および問題解説 【備　考】 教科書　p220－264までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
14	【タイトル】視診、打診の復習 【到達目標】視診、打診について理解し、説明できる。 【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 【備　考】 教科書　p8－36までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
15	【タイトル】聴診、触診の復習 【到達目標】聴診、触診について理解し、説明できる。 【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 【備　考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書　p37－52までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
16	【タイトル】生命徴候、感覚検査の復習 【到達目標】生命徴候、感覚検査について理解し、説明できる。 【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 【備　考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書　p52－65までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
17	【タイトル】反射検査、代表的な臨床症状の復習 【到達目標】反射検査、代表的な臨床症状について理解し、説明できる。 【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 【備　考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書　p66－92までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
18	【タイトル】検査法の復習 【到達目標】検査法について理解し、説明できる。 【授業形態】 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 【備　考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書　p93－97までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
19	【タイトル】呼吸器疾患の復習 【到達目標】検査法呼吸器疾患について理解し説明できる。 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 【備　考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書　p99－112までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
20	【タイトル】循環器疾患の復習 【到達目標】循環器疾患について理解し説明できる。 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 【備　考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書　p114－128までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
21	【タイトル】消化器疾患の復習 【到達目標】消化器疾患について理解し説明できる。 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 【備　考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書　p129－155までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
22	【タイトル】代謝疾患の復習 【到達目標】代謝疾患について理解し説明できる。 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 【備　考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書　p156－171までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
23	【タイトル】内分泌疾患の復習 【到達目標】内分泌疾患について理解し説明できる。 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 【備　考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書　p172－185までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
24	【タイトル】血液・造血器疾患、腎・尿路疾患の復習 【到達目標】血液・造血器疾患、腎・尿路疾患について理解し説明できる。 主に講義形式ですが、適宜ペアワークを実施します。 【備　考】 小テストを行うので、前回の講義内容をまとめましょう。 教科書　p185－219までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター
25	【タイトル】一般臨床医学の総まとめ 【到達目標】これまで学修した内容について理解し説明できる。 まとめ及び試験と試験問題の解説 【備　考】 まとめ及び試験と試験問題の解説をします。 教科書　p1－266までを予習し授業に臨みましょう。	プロジェクター

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	整形外科学	学科名	柔道整復	履修年次	3年次
		教授法	講義	単位数コマ	3単位(38ｺﾏ)
教 員	安藤利泰	領域	専門基礎	実務経験	無

教科書	整形外科学(南江堂)
参考書	
成績評価	定期試験の結果による。
評価基準	
到達目標	整形外科学の基礎知識を習得し、将来臨床家として、医師との連携していく際に役立つ知識を学ぶ。
留意事項	
授業外に必要な学習内容	
授業内容	整形外科学一般の診察、検査、治療について学び、次いで外傷、スポーツ整形外科、リハビリテーション医学の概要を理解し、運動器(骨、関節、筋肉、神経)の各疾患の病態とその治療法について知識を得る。

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	整形外科概論(1)運動器の基礎知識 (骨・関節、軟部組織の知識)	プロジェクター
2	整形外科概論(2)整形外科診察法	プロジェクター
3	整形外科概論(3)整形外科検査法① (X線、CTについて)	プロジェクター
4	整形外科概論(3)整形外科検査法② (MRI、骨密度、筋電図について)	プロジェクター
5	整形外科概論(4)整形外科治療法 (保存療法・観血療法について)	プロジェクター
6	スポーツ整形外科総論、リハビリテーション総論	プロジェクター
7	骨折総論	プロジェクター
8	関節総論(脱臼・捻挫について)	プロジェクター
9	骨・関節感染症 (急性・慢性化膿性骨髄炎、骨関節結核など)	プロジェクター
10	軟部腫瘍 (血管腫・神経鞘腫など)	プロジェクター

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
11	骨腫瘍 （骨軟骨腫、内軟骨腫、骨巨細胞腫など）	プロジェクター
12	非感染性軟部・骨関節疾患① （変形性関節症、関節リウマチ）	プロジェクター
13	非感染性軟部・骨関節疾患② （痛風、偽痛風、離断性骨軟骨炎、骨粗鬆症など）	プロジェクター
14	全身性の骨・軟部疾患：先天性疾患 （軟骨無形性症、モルキオ病、マルファン症候群、大理石骨病 くる病、巨人症など）	プロジェクター
15	骨端症 （ペルテス病、オスグッド病、ブラント病、セーバー病など）	プロジェクター
16	四肢循環障害 （閉塞性血栓血管炎、レイノー病、深部静脈血栓症など）	プロジェクター
17	神経疾患 （橈骨・正中・尺骨神経障害、腕神経叢障害、坐骨神経障害）	プロジェクター
18	定期試験・演習	プロジェクター
19	定期試験解答・解説	プロジェクター
20	全身性神経疾患① （脳性麻痺、ポリオ、ALS、進行性筋ジストロフィーなど）	プロジェクター
21	全身性神経疾患② （脊髄損傷、脊髄腫瘍など）	プロジェクター
22	身体各部の疾患：頚部 （頸椎骨折・脱臼、頚椎捻挫、むちうち症など）	プロジェクター
23	身体各部の疾患：胸椎部・腰椎部① （側弯症、圧迫骨折など）	プロジェクター
24	身体各部の疾患：腰椎部② （腰椎ヘルニア、分離すべり症、脊柱管狭窄症など）	プロジェクター
25	身体各部の疾患：肩甲帯・上腕部① （鎖骨骨折・上腕骨骨折・肩関節脱臼）	プロジェクター
26	身体各部の疾患：肩甲帯・上腕部② （腱板断裂、野球肩、動揺性肩関節、インピンジメント症候群）	プロジェクター
27	身体各部の疾患：上腕・肘関節 （前腕骨骨折〔コ―レス骨折、モンテギア骨折〕、肘関節脱臼 、上腕骨外側上顆炎、肘内側側副靱帯損傷）	プロジェクター
28	身体各部の疾患：前腕・手関節 （舟状骨骨折、ボクサー骨折、マレットフィンガー、 TFCC損傷、ばね指など）	プロジェクター
29	身体各部の疾患：骨盤部・大腿部① （骨盤骨折、大腿骨骨折、股関節脱臼）	プロジェクター
30	身体各部の疾患：骨盤部・大腿部② （化膿性股関節炎、ペルテス病、大腿骨頭すべり症、ばね股 groin pain症候群、変形性股関節症）	プロジェクター

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
31	身体各部の疾患：膝関節① （膝蓋骨骨折、膝蓋骨脱臼、膝関節周囲骨折、膝関節脱臼）	プロジェクター
32	身体各部の疾患：膝関節② （膝周囲の靭帯損傷〔MCL、LCL、ACL、PCL〕、半月板損傷）	プロジェクター
33	身体各部の疾患：膝関節③ （膝蓋腱炎、腸脛靭帯炎、変形性膝関節症、タナ障害など）	プロジェクター
34	身体各部の疾患：下腿・足関節 （果部骨折、踵骨骨折、中足骨骨折、足関節捻挫）	プロジェクター
35	身体各部の疾患：足部・足趾部 （アキレス腱断裂、アキレス腱周囲炎、扁平足、足根管症候群など）	プロジェクター
36	総まとめ	プロジェクター
37	定期試験・演習	プロジェクター
38	定期試験解答・解説	プロジェクター

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	鑑別診断学	学科名	柔道整復	履修年次	3年次
		教授法	講義	単位数コマ	3単位(38コマ)
教 員	横山俊英	領域	専門基礎	実務経験	
教科書	「解剖学改訂版第2版」「柔道整復理論編改訂版第6版」「医療の中の柔道整復」				
参考書	配布資料				
成績評価	定期試験、小テスト、出席率を含めて総合評価する。				
評価基準					
到達目標	器質的な損傷について深く理解することで、非適応疾患に対する違和感を養う				
留意事項	・適宜に資料配布 ・安易に休まないこと				
授業外に必要な学習内容	・解剖の知識、用語の理解度				
授業内容	外傷損傷、非外傷性疾患の知識を深めることで治療適応か否かの判断力を養うことを目的とする。そのために問診、視診、触診、神経学的検査、徒手検査のなどの評価でどこに注目するのか、見逃してはいけないポイント、非外傷性疾患の特徴などを踏まえながら講義していく。X線、CT、MRIなどの画像診断装置についてや、近年柔道整復師の現場で利用される機会の多い「超音波画像診断装置」の画像の特性、判断について講義を行う。臨床に出た際に柔道整復術の適応、不適応を判断する能力、医師、または他の医療従事者との連携をするための知識を習得する。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション、柔道整復術の適応範囲	プロジェクター
2	損傷に類似した症状を示す疾患① （背部、胸部、腹部、肩部、上肢、腰部）	プロジェクター
3	損傷に類似した症状を示す疾患② （化膿性炎症、皮膚疾患、軟部組織損傷）	プロジェクター
4	血流障害を合併する疾患	プロジェクター
5	末梢神経障害を合併する疾患①	プロジェクター
6	末梢神経障害を合併する疾患②	プロジェクター
7	脱臼骨折について	プロジェクター
8	開放性骨折①（上肢）	プロジェクター
9	開放性骨折①（下肢）	プロジェクター
10	病的骨折、病的脱臼	プロジェクター

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
11	意識障害を伴う外傷（骨折・脱臼）	プロジェクター
12	脊髄障害を伴う外傷（骨折・脱臼）	プロジェクター
13	呼吸運動障害を伴う外傷（骨折・脱臼）	プロジェクター
14	内臓損傷を伴う外傷（骨折・脱臼）	プロジェクター
15	高エネルギー外傷	プロジェクター
16	医用画像の理解（総論）	プロジェクター
17	X線とは	プロジェクター
18	前期定期試験	
19	定期試験解答・解説	プロジェクター
20	X線撮影の実際①　～肩関節～	プロジェクター
21	X線撮影の実際②　～肘関節～	プロジェクター
22	X線撮影の実際③　～手関節～	プロジェクター
23	X線撮影の実際④　～膝関節～	プロジェクター
24	X線撮影の実際⑤　～足関節～	プロジェクター
25	X線撮影の実際⑥　～股関節～	プロジェクター
26	X線撮影の実際⑦　～脊柱部～	プロジェクター
27	CTについて	プロジェクター
28	CT撮影の実際（頭部、胸部、腹部）	プロジェクター
29	MRIについて	プロジェクター

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
30	MRI撮影の実際（上肢）	プロジェクター
31	MRI撮影の実際（下肢、体幹）	プロジェクター
32	超音波画像診断装置について	プロジェクター
33	超音波画像診断装置の撮影の実際（上肢①）	プロジェクター
34	超音波画像診断装置の撮影の実際（上肢②）	プロジェクター
35	超音波画像診断装置の撮影の実際（下肢①）	プロジェクター
36	超音波画像診断装置の撮影の実際（下肢②）	プロジェクター
37	定期試験	
38	定期試験解答・解説	プロジェクター

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	保険の仕組み	学科名	柔道整復	履修年次	3年次
		教授法	講義	単位数コマ	1単位(13ｺﾏ)
教 員	関屋浩介	領域	専門基礎	実務経験	接骨院

教科書	医歯薬出版株式会社 「社会保障制度と柔道整復師の職業倫理」
参考書	
成績評価	定期試験、出席日数を含めて評価する。
評価基準	
到達目標	社会保障を理解すること。
留意点	適宜資料配布、安易に休まない。
授業外に必要な学習内容	
授業内容	柔道整復師として接骨院での勤務経験を踏まえ、柔道整復師は開業できることが可能であり、医療費等の医療経済を含む社会保障制度を教授する。 インフォームドコンセントや患者中心の医療についても柔道整復医療の現場をみて、柔道整復師の立場、患者の立場双方からのリスクのマネジメントができる人材として成長することを目標とする。

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション	パワーポイント・プリント
2	社会保障（公的年金の意義、仕組み）	パワーポイント・プリント
3	社会保障制度とは（介護保険、社会福祉、公的扶助）	パワーポイント・プリント
4	医療保険制度（医療保険の目的と意義）	パワーポイント・プリント
5	医療保険制度（保険医療の概要）	パワーポイント・プリント
6	医療保険制度（診療報酬制度）	パワーポイント・プリント
7	療養費制度の概要	パワーポイント・プリント
8	療養費（現物給付、支給額）	パワーポイント・プリント
9	柔道整復療養費（受領委任払い、償還払い）	パワーポイント・プリント
10	療養費の算定	パワーポイント・プリント
11	ケーススタディ	パワーポイント・プリント
12	定期試験・演習	パワーポイント・プリント
13	定期試験解答・解説	パワーポイント・プリント

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	柔道3	学科名	柔道整復	履修年次	3年次
		教授法	実技	単位数コマ	1単位(15ｺﾏ)
教 員	小林廣幸	領域	専門基礎	実務経験	接骨院
教科書	イラスト柔道の形(五月書房)				
参考書	認定実技審査要領・柔道国際審判規定・DVD柔道の形				
成績評価	成績評価は次により行う。 ①出席日数 ②学習態度				
評価基準	総合で60点以上を合格とする。				
到達目標	講道館規定による柔道1級に求められる受け身、形、約束乱取りの実力を仕上げる。				
留意点	柔道実技:実技認定試験(柔道)に合わせ礼法・前周り受身・投げの形・柔の形・約束練習を修得させ全員1級を取得させる技術を習得させる。 ピアス、ネックレス、ブレスレットをはずし、長髪の場合は束ねる。基本的には見学の際にも柔道着を着て見学するものとする。				
授業外に必要な学習内容					
授業内容	柔道整復師として接骨院での勤務経験を踏まえ、本科目では卒業を前に、講道館規定による柔道1級に求められる受け身、形、約束乱取りの実力を確実なものとするよう実技指導と解説を行い、総仕上げとする。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション	認定実技審査要領
2	坐礼・立礼・前方回転受身	認定実技審査要領
3	手技:浮落	認定実技審査要領
4	手技:背負投	認定実技審査要領
5	手技:肩車	認定実技審査要領
6	腰技:浮腰	認定実技審査要領
7	腰技:払腰	認定実技審査要領
8	腰技:釣込腰	認定実技審査要領
9	足技:送足払	認定実技審査要領
10	足技:支釣込足	認定実技審査要領
11	足技:内股	認定実技審査要領
12	総合練習①	認定実技審査要領
13	総合練習②	認定実技審査要領
14	総合練習③	認定実技審査要領
15	テスト	認定実技審査要領

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	基礎柔道整復学5	学科名	柔道整復	履修年次	3年次
		教授法	講義	単位数コマ	2単位(30ｺﾏ)
教 員	宮本義豊	領域	専門	実務経験	接骨院
教科書	解剖学　生理学　運動学　柔道整復学・理論編				
参考書	筋骨格系のキネシオロジー　解剖学カラ―アトラス				
成績評価	定期試験、小テスト等を鑑み総合的に判断する				
評価基準	各試験60点以上で合格、59点以下および欠席日数により単位不認定とする				
到達目標	正常な運動器の形態・機能面を理解し生理学的な作用も把握できるようにする				
留意点	解剖学、生理学の知識も復習する				
授業外に必要な学習内容					
授業内容	柔道整復師として接骨院での勤務経験を踏まえ、日常生活に於いて身体の動きを意識して、解剖学的にも名称をしっかりと理解していく				

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
1	運動学の意味と柔道整復学との関連	
2	身体運動の力学と損傷時の力の種類	
3	身体運動の力学と損傷時に影響する要素	
4	骨の構造と形態と機能	
5	関節の構造と機能、痛みの評価	
6	筋肉の構造と機能、損傷の分類	
7	神経細胞の構造と機能、伝達のしくみ	
8	中枢神経のしくみと末梢神経の分類	
9	運動単位とサルコメア	
10	反射のメカニズムと分類	

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
11	異常反射と神経伝導路	
12	生理学的見地からみた痛みへのアプローチ	
13	上肢帯の骨格、運動、生理的作用	
14	前期期末試験	
15	解答と解説	
16	下肢帯の骨格、運動、生理学的作用	
17	運動とホルモン分泌の作用	
18	運動によるストレスとホルモン	
19	筋収縮のためのエネルギー	
20	運動と筋力、筋肥大	
21	運動と筋線維タイプ	
22	骨格筋のトレーニング作用	
23	運動と筋疲労	
24	運動と呼吸機能の調節	
25	運動と循環機能の調節	
26	運動とエネルギー代謝	
27	急性痛と慢性痛について	
28	後期期末試験	
29	解答と解説	
30	総復習	

〈2021年度〉

授 業 要 項

科　目	臨床柔道整復学3	学科名	柔道整復	履修年次	3年次
		教授法	講義	単位数コマ	5単位(76コマ)
教　員	小野真理恵　横山俊英	領域	専門	実務経験	横山：接骨院
教科書	[小野] 柔整学校協会編、『柔道整復学・理論編 第6版』「実技編」 [横山] 柔道整復理論編・柔道整復実技編				
参考書	[小野] 運動学の教科書 [横山] 2021国家試験過去問題集				
成績評価	[小野] 前期定期試験、後期定期試験を総合して評価する。75%以上の出席を要件とする [横山] 定期試験・出席日数・授業態度				
評価基準	[小野] 適宜テストを行い、平均60点以上を合格とする。 [横山] 定期試験基準をクリアすること。出席日数基準をクリアすること。				
到達目標	[小野] 国家試験問題(柔道整復理論一般問題)正答率80%以上を目指す。 [横山] 柔道整復術の頭部、体幹、上肢損傷に対する対処方法を中心に学び、臨床や国家試験に必要な知識をつける。				
留意点	[小野] 適宜実施する中間テストも評価に考慮する。 [横山] 配布するプリントが多いため、各自ファイルを用意して管理すること。				
授業外に必要な学習内容	[横山] 予習復習として教科書を読む。				
授業内容	[小野] 機能解剖学の知識を基盤として運動器疾患疾患の病態生理をマスターする。柔道整復理論「軟部組織損傷」の　国家試験対策もあわせておこなう。 [横山] 柔道整復師として接骨院での勤務経験を踏まえ、本科目では教科書とプリントを用いて大切な部分を重点的に、実技を踏まえた授業を行う。毎授業小テストを行い理解度の確認を行う。				

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
1	鎖骨部の損傷(機能解剖)	プロジェクター
2	鎖骨部の損傷(鎖骨骨折)	プロジェクター
3	鎖骨部の損傷(鎖骨の脱臼)	プロジェクター
4	肩関節の損傷(機能解剖)	プロジェクター
5	肩関節の損傷(肩甲骨骨折)	プロジェクター
6	肩関節の損傷(上腕骨近位部の骨折)	プロジェクター
7	肩関節の損傷(上腕骨近位部の骨折)	プロジェクター
8	肩関節の損傷(肩関節脱臼)	プロジェクター
9	肩関節の損傷(肩関節部の軟部組織損傷)	プロジェクター
10	肩関節の損傷(肩関節部の軟部組織損傷)	プロジェクター

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
11	上腕部の損傷(機能解剖)	プロジェクター
12	上腕部の損傷(上腕骨骨幹部骨折)	プロジェクター
13	上腕部の損傷(上腕部の軟部組織損傷)	プロジェクター
14	肘関節部の損傷(機能解剖)	プロジェクター
15	肘関節部の損傷(上腕骨遠位部の骨折)	プロジェクター
16	肘関節部の損傷(前腕骨近位部の骨折)	プロジェクター
17	肘関節部の損傷(肘関節の脱臼)	プロジェクター
18	肘関節部の損傷(肘関節部の軟部組織損傷)	プロジェクター
19	前期テスト	
20	前腕部の損傷(機能解剖)	プロジェクター
21	前腕部の損傷(前腕骨骨幹部骨折)	プロジェクター
22	前腕部の損傷(前腕骨骨幹部骨折)	プロジェクター
23	前腕部の損傷(前腕部の軟部組織損傷)	プロジェクター
24	手関節部の損傷(機能解剖)	プロジェクター
25	手関節部の損傷(前腕骨遠位端部骨折)	プロジェクター
26	手関節部の損傷(前腕骨遠位端部骨折)	プロジェクター
27	手関節部の損傷(手根骨部の骨折)	プロジェクター
28	手関節部の損傷(手関節部の脱臼)	プロジェクター
29	手関節部の損傷(軟部組織損傷)	プロジェクター
30	手・指部の損傷(機能解剖)	プロジェクター

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
31	手・指部の損傷(中手骨部の骨折)	プロジェクター
32	手・指部の損傷(手根中手関節の脱臼)	プロジェクター
33	手・指部の損傷(指骨の骨折)	プロジェクター
34	手・指部の損傷(中手指節関節,指節間関節の脱臼)	プロジェクター
35	手・指部の損傷(軟部組織損傷)	プロジェクター
36	手・指部の損傷(軟部組織損傷)	プロジェクター
37	後期テスト	
38	総まとめ	プロジェクター
39	1年間のガイダンス	プロジェクター
40	頭部、顔面部の解剖と機能	プロジェクター
41	頭部、顔面部の骨折	プロジェクター
42	顎関節脱臼	プロジェクター
43	頸部の解剖と機能	プロジェクター
44	頸椎の骨折	プロジェクター
45	頸椎脱臼	プロジェクター
46	胸部、背部の解剖と機能	プロジェクター
47	胸部の骨折	プロジェクター
48	胸椎の骨折	プロジェクター
49	胸椎の脱臼	プロジェクター
50	腰部、仙骨部の解剖と機能	プロジェクター

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
51	腰椎の骨折	プロジェクター
52	腰椎の脱臼	プロジェクター
53	鎖骨部の機能と解剖	プロジェクター
54	鎖骨骨折	プロジェクター
55	鎖骨脱臼	プロジェクター
56	定期試験	
57	まとめ	プロジェクター
58	肩関節の機能と解剖	プロジェクター
59	肩甲骨の骨折	プロジェクター
60	上腕骨近位部の骨折	プロジェクター
61	肩関節脱臼	プロジェクター
62	上腕部の機能と解剖	プロジェクター
63	上腕骨骨幹部骨折	プロジェクター
64	肘関節部の解剖と機能	プロジェクター
65	上腕骨遠位部の骨折	プロジェクター
66	前腕骨近位部の骨折	プロジェクター
67	肘関節の脱臼	プロジェクター
68	前腕部の解剖と機能	プロジェクター
69	前腕骨骨幹部骨折	プロジェクター
70	手関節部の解剖と機能	プロジェクター

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
71	前腕骨遠位端部骨折	プロジェクター
72	手根骨部の骨折	プロジェクター
73	手関節部の脱臼	プロジェクター
74	手・指部の骨折と脱臼	プロジェクター
75	定期試験	
76	まとめ	プロジェクター

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	臨床柔道整復学4	学科名	柔道整復	履修年次	3年次
		教授法	講義	単位数コマ	2単位(30ｺﾏ)
教 員	村山晶子	領域	専門	実務経験	接骨院
教科書	柔道整復学・理論編　改訂版第6版、柔道整復学・実技編　改訂版第2版				
参考書	配布資料				
成績評価	小テスト、出席、定期試験を総合的に評価する。				
評価基準	定期試験60点以上で合格、欠席日数の1/3を超えた場合は単位不認定とする。				
到達目標	下肢の運動器疾患を学び、臨床や国家試験に必要な知識を身に着ける。				
留意点					
授業外に必要な学習内容	骨盤部、股関節部～足部の筋骨格系の解剖学的知識を予習すること。				
授業内容	柔道整復師として接骨院での勤務経験を踏まえ、本科目では教科書とプリントを用いて授業を行う。各ポイントを学ぶことで、損傷に対する臨床的な思考を身につける。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	ガイダンス	プロジェクター
2	骨盤部の解剖と機能	プロジェクター
3	骨盤骨の骨折	プロジェクター
4	股関節部の解剖と機能	プロジェクター
5	大腿骨近位端部骨折	プロジェクター
6	股関節脱臼	プロジェクター
7	股関節部の軟部組織損傷	プロジェクター
8	大腿部の解剖と機能	プロジェクター
9	大腿部骨幹部骨折	プロジェクター
10	大腿部の軟部組織損傷	プロジェクター

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
11	膝関節部の解剖と機能	プロジェクター
12	膝関節部の解剖と機能	プロジェクター
13	大腿骨遠位端部骨折、脛骨近位端部骨折	プロジェクター
14	定期試験①	プロジェクター
15	まとめ①	プロジェクター
16	膝関節部の軟部組織期損傷	プロジェクター
17	膝関節部の軟部組織期損傷	プロジェクター
18	下腿部の解剖と機能	プロジェクター
19	下腿骨骨幹部骨折	プロジェクター
20	下腿部の軟部組織損傷	プロジェクター
21	足部の解剖と機能	プロジェクター
22	足部の解剖と機能	プロジェクター
23	足根骨骨折	プロジェクター
24	足根骨骨折	プロジェクター
25	中足骨骨折	プロジェクター
26	足趾部の骨折、脱臼	プロジェクター
27	足部の軟部組織損傷	プロジェクター
28	足部の軟部組織損傷	プロジェクター
29	定期試験②	プロジェクター
30	まとめ②	プロジェクター

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	柔道整復実技3	学科名	柔道整復	履修年次	3年次
		教授法	実技	単位数コマ	2単位(30コマ)
教 員	小林 聖	領域	専門	実務経験	接骨院
教科書	柔道整復学理論編改訂第6版　柔道整復学実技編改訂版第6版　包帯固定学				
参考書	プリント				
成績評価	試験　小テスト・出席日数・学習態度で総合的に評価				
評価基準	定期試験60点以上で合格、欠席日数が出席日数の1/3を超えた場合は単位不認定とする。				
到達目標	認定実技審査合格水準を超えること				
留意点	欠席はたとえ一回であっても貴重な実習機会を失うことになる。安易に休まない。				
授業外に必要な学習内容	授業中に配布したプリントの復習。この実習については復習が重要だが、実技内容を一人で復習することはとても難しい。クラス内で協力して、復習・練習の機会を積極的に持ってほしい。				
授業内容	柔道整復師として接骨院での勤務経験を踏まえ、基本包帯法から確認し、柔道整復実技編に記載されている固定法や整復法を中心に確認していく。それ以外にも、臨床で実際に使える整復法や固定法や徒手検査法を学ぶ。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	整復法総論	プロジェクター
2	整復法総論2	プロジェクター
3	整復法総論3	プロジェクター
4	上腕骨近位骨端線離開	プロジェクター
5	上腕骨外科頸骨折整復	プロジェクター
6	上腕骨外科頸骨折固定	プロジェクター
7	上腕骨顆状骨折整復	プロジェクター
8	上腕骨顆上骨折固定	プロジェクター
9	上腕骨外顆骨折整復	プロジェクター
10	上腕骨外顆骨折固定	プロジェクター

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
11	上腕骨内側上顆骨折整復	プロジェクター
12	上腕骨内側上顆骨折固定	プロジェクター
13	肘頭骨折整復	プロジェクター
14	肘頭骨折固定	プロジェクター
15	まとめ	プロジェクター
16	モンテギア骨折整復	プロジェクター
17	モンテギア骨折固定	プロジェクター
18	舟状骨骨折整復	プロジェクター
19	舟状骨骨折固定	プロジェクター
20	基節骨基部骨折整復	プロジェクター
21	基節骨基部骨折固定	プロジェクター
22	大腿骨頸部骨折整復	プロジェクター
23	大腿骨頸部骨折固定	プロジェクター
24	膝蓋骨骨折整復	プロジェクター
25	膝蓋骨骨折固定	プロジェクター
26	膝蓋骨脱臼整復	プロジェクター
27	膝蓋骨脱臼固定	プロジェクター
28	下腿骨果部骨折整復	プロジェクター
29	下腿骨果部骨折固定	プロジェクター
30	まとめ	プロジェクター

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	柔道整復実技4	学科名	柔道整復	履修年次	3年次
		教授法	実技	単位数コマ	5単位(76コマ)
教 員	関屋浩介　山田浩正　村山晶子　小林聖	領域	専門	実務経験	接骨院
教科書	柔道整復学理論編改訂第6版　柔道整復学実技編改訂版第6版　包帯固定学				
参考書	プリント				
成績評価	筆記試験　小テスト(講義中実施)・出席日数・学習態度で総合的に評価				
評価基準	定期試験60点以上で合格、欠席日数が出席日数の1/3を超えた場合は単位不認定とする。				
到達目標	認定実技審査合格水準を超えること				
留意点	欠席はたとえ一回であっても貴重な実習機会を失うことになる。安易に休まない。				
授業外に必要な学習内容	授業中に配布したプリントの復習。この実習については復習が重要だが、実技内容を一人で復習することはとても難しい。クラス内で協力して、復習・練習の機会を積極的に持ってほしい。				
授業内容	柔道整復師として接骨院での勤務経験を踏まえ、認定実技審査対策として必要な技能を教授するとともに、臨床に幅広く応用できるようポイントをおさえていく。				

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
1	ガイダンス①	プロジェクター・プリント
2	鎖骨骨折固定実技(リング固定)①	包帯　リング副子
3	鎖骨骨折固定実技(リング固定)②	包帯　リング副子
4	鎖骨骨折固定実技(リング固定)③	包帯　リング副子
5	上腕骨骨幹部骨折ミッテルドルフ三角副子固定実技①	包帯　ミッテルドルフ三角副子
6	上腕骨骨幹部骨折ミッテルドルフ三角副子固定実技②	包帯　ミッテルドルフ三角副子
7	上腕骨骨幹部骨折ミッテルドルフ三角副子固定実技③	包帯　ミッテルドルフ三角副子
8	コーレス骨折固定実技①	包帯　背側副子他
9	コーレス骨折固定実技②	包帯　背側副子他
10	コーレス骨折固定実技③	包帯　背側副子他

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
11	振り返り　演習①	包帯　各種副子他
12	第5指中手骨頸部骨折固定実技①	包帯　掌側副子
13	第5指中手骨頸部骨折固定実技②	包帯　掌側副子
14	下腿骨骨幹部骨折固定実技①	包帯　クラーメル副子
15	下腿骨骨幹部骨折固定実技②	包帯　クラーメル副子
16	下腿骨骨幹部骨折実技固定③	包帯　クラーメル副子
17	振り返り　演習②	包帯　各種副子他
18	試験	包帯　各種副子他
19	まとめ	包帯　各種副子他
20	肋骨骨折固定実技①	さらし　厚紙副子
21	肋骨骨折固定実技②	さらし　厚紙副子
22	肩鎖関節上方脱臼固定実技①	包帯　テープ　三角巾他
23	肩鎖関節上方脱臼固定実技②	包帯　テープ　三角巾他
24	肩鎖関節上方脱臼固定実技③	包帯　テープ　三角巾他
25	肘関節後方脱臼固定実技①	包帯　クラーメル副子他
26	肘関節後方脱臼固定実技②	包帯　クラーメル副子他
27	手第2指背側脱臼固定実技①	包帯　背側副子他
28	手第2指背側脱臼固定実技②	包帯　背側副子他
29	アキレス腱断裂固定実技①	包帯　クラーメル副子他
30	アキレス腱断裂固定実技②	包帯　クラーメル副子他

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
31	アキレス腱断裂固定実技③	包帯　クラーメル副子他
32	足関節外側側副靱帯局所副子固定実技①	包帯　厚紙副子他
33	足関節外側側副靱帯局所副子固定実技②	包帯　厚紙副子他
34	足関節外側側副靱帯局所副子固定実技③	包帯　厚紙副子他
35	振り返り　演習③	包帯　各種副子他
36	振り返り　演習④	包帯　各種副子他
37	試験	包帯　各種副子他
38	総まとめ	包帯　各種副子他
39	ガイダンス②	プロジェクター・プリント
40	軟部組織損傷　腱板断裂診察及び検査実技①	プリント
41	軟部組織損傷　腱板断裂診察及び検査実技②	プリント
42	軟部組織損傷　上腕二頭筋長頭腱損診察及び検査実技①	プリント
43	軟部組織損傷　上腕二頭筋長頭腱損診察及び検査実技②	プリント
44	振り返り　演習①	プリント
45	軟部組織損傷　ハムストリングス損傷診察及び検査実技①	プリント
46	軟部組織損傷　ハムストリングス損傷診察及び検査実技②	プリント
47	軟部組織損傷　ハムストリングス損傷診察及び検査実技③	プリント
48	軟部組織損傷　大腿四頭筋打撲診察及び検査実技①	プリント
49	軟部組織損傷　大腿四頭筋打撲診察及び検査実技②	プリント
50	軟部組織損傷　大腿四頭筋打撲診察及び検査実技③	プリント

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
51	軟部組織損傷　下腿三頭筋損傷診察及び検査実技①	プリント
52	軟部組織損傷　下腿三頭筋損傷診察及び検査実技②	プリント
53	軟部組織損傷　下腿三頭筋損傷診察及び検査実技③	プリント
54	振り返り　演習②	プリント
55	振り返り　演習③	プリント
56	試験	プリント
57	軟部組織損傷　膝関節半月板損傷診察及び検査実技①	プリント
58	軟部組織損傷　膝関節半月板損傷診察及び検査実技②	プリント
59	軟部組織損傷　膝関節半月板損傷診察及び検査実技③	プリント
60	軟部組織損傷　膝関節十字靱帯損傷診察及び検査実技①	プリント
61	軟部組織損傷　膝関節十字靱帯損傷診察及び検査実技②	プリント
62	軟部組織損傷　膝関節十字靱帯損傷診察及び検査実技③	プリント
63	振り返り　演習④	プリント
64	軟部組織損傷　膝関節側副靱帯損傷診察及び検査実技①	プリント
65	軟部組織損傷　膝関節側副靱帯損傷診察及び検査実技②	プリント
66	膝関節内側側副靱帯損傷　Xサポートテープ固定実技②	テープ
67	膝関節内側側副靱帯損傷　Xサポートテープ固定実技②	テープ
68	膝関節内側側副靱帯損傷　Xサポートテープ固定実技③	テープ
69	軟部組織損傷　足関節外側靭帯損傷診察及び検査実技①	プリント
70	軟部組織損傷　足関節外側靭帯損傷診察及び検査実技②	プリント

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
71	足関節外側側副靱帯損傷　テーピング固定実技①	テープ
72	足関節外側側副靱帯損傷　テーピング固定実技②	テープ
73	足関節外側側副靱帯損傷　テーピング固定実技③	テープ
74	振り返り　演習⑤	プリント
75	試験	
76	総まとめ	プリント

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	臨床実習3	学科名	柔道整復	履修年次	3年次
		教授法	実習	単位数コマ	2単位(45コマ)
教 員	宮前 勤　佐藤史人　小林　聖 関屋浩介　村山晶子　山田浩正　吉原貴宏	領域	専門	実務経験	接骨院,鍼灸接骨院

教科書	適宜プリントで代用
参考書	適宜プリントで代用
成績評価	中間評価表、最終評価表、デイリーノート、出席状況得等を総合する。
評価基準	100%の出席をもって合格とする。欠席分は附属臨床施設実習で補填する。
到達目標	柔整師として臨床における実践的能力および保険の仕組みに関する知識を習得し、患者との適切な対応を望む。また、施術者としての責任と自覚を学ぶ
留意点	実習指導者の指示に従うこと。利用者に対して人間性を尊重することを忘れず、誠意を持って対応し、馴れ馴れしい態度や言葉遣いは避けること。利用者に関する情報については秘密を守り、一切口外しないこと。施設内では慎重に行動し、利用者とのトラブルや未熟な対処による事故を防止するため十分に安全に心掛けること。
授業外に必要な学習内容	社会保障制度について自習しておくこと
授業内容	柔道整復師として接骨院での勤務経験を踏まえ、外部臨床施設(接骨院、整形外科)での臨床実習を行う。 学校協会ガイドラインに準拠する。 ガイダンス、実習前教育は時間外でおこなう。

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
1	外部 臨床実習(接骨院または整形外科)	
2	外部 臨床実習(接骨院または整形外科)	
3	外部 臨床実習(接骨院または整形外科)	
4	外部 臨床実習(接骨院または整形外科)	
5	外部 臨床実習(接骨院または整形外科)	
6	外部 臨床実習(接骨院または整形外科)	
7	外部 臨床実習(接骨院または整形外科)	
8	外部 臨床実習(接骨院または整形外科)	
9	外部 臨床実習(接骨院または整形外科)	
10	外部 臨床実習(接骨院または整形外科)	

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
11	外部 臨床実習(接骨院または整形外科)	
12	外部 臨床実習(接骨院または整形外科)	
13	外部 臨床実習(接骨院または整形外科)	
14	外部 臨床実習(接骨院または整形外科)	
15	外部 臨床実習(接骨院または整形外科)	
16	外部 臨床実習(接骨院または整形外科)	
17	外部 臨床実習(接骨院または整形外科)	
18	外部 臨床実習(接骨院または整形外科)	
19	外部 臨床実習(接骨院または整形外科)	
20	外部 臨床実習(接骨院または整形外科)	
21	外部 臨床実習(接骨院または整形外科)	
22	外部 臨床実習(接骨院または整形外科)	
23	外部 臨床実習(接骨院または整形外科)	
24	外部 臨床実習(接骨院または整形外科)	
25	外部 臨床実習(接骨院または整形外科)	
26	外部 臨床実習(接骨院または整形外科)	
27	外部 臨床実習(接骨院または整形外科)	
28	外部 臨床実習(接骨院または整形外科)	
29	外部 臨床実習(接骨院または整形外科)	
30	外部 臨床実習(接骨院または整形外科)	

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
31	外部 臨床実習(接骨院または整形外科)	
32	外部 臨床実習(接骨院または整形外科)	
33	外部 臨床実習(接骨院または整形外科)	
34	外部 臨床実習(接骨院または整形外科)	
35	外部 臨床実習(接骨院または整形外科)	
36	外部 臨床実習(接骨院または整形外科)	
37	外部 臨床実習(接骨院または整形外科)	
38	外部 臨床実習(接骨院または整形外科)	
39	外部 臨床実習(接骨院または整形外科)	
40	外部 臨床実習(接骨院または整形外科)	
41	外部 臨床実習(接骨院または整形外科)	
42	外部 臨床実習(接骨院または整形外科)	
43	外部 臨床実習(接骨院または整形外科)	
44	外部 臨床実習(接骨院または整形外科)	
45	外部 臨床実習(接骨院または整形外科)	